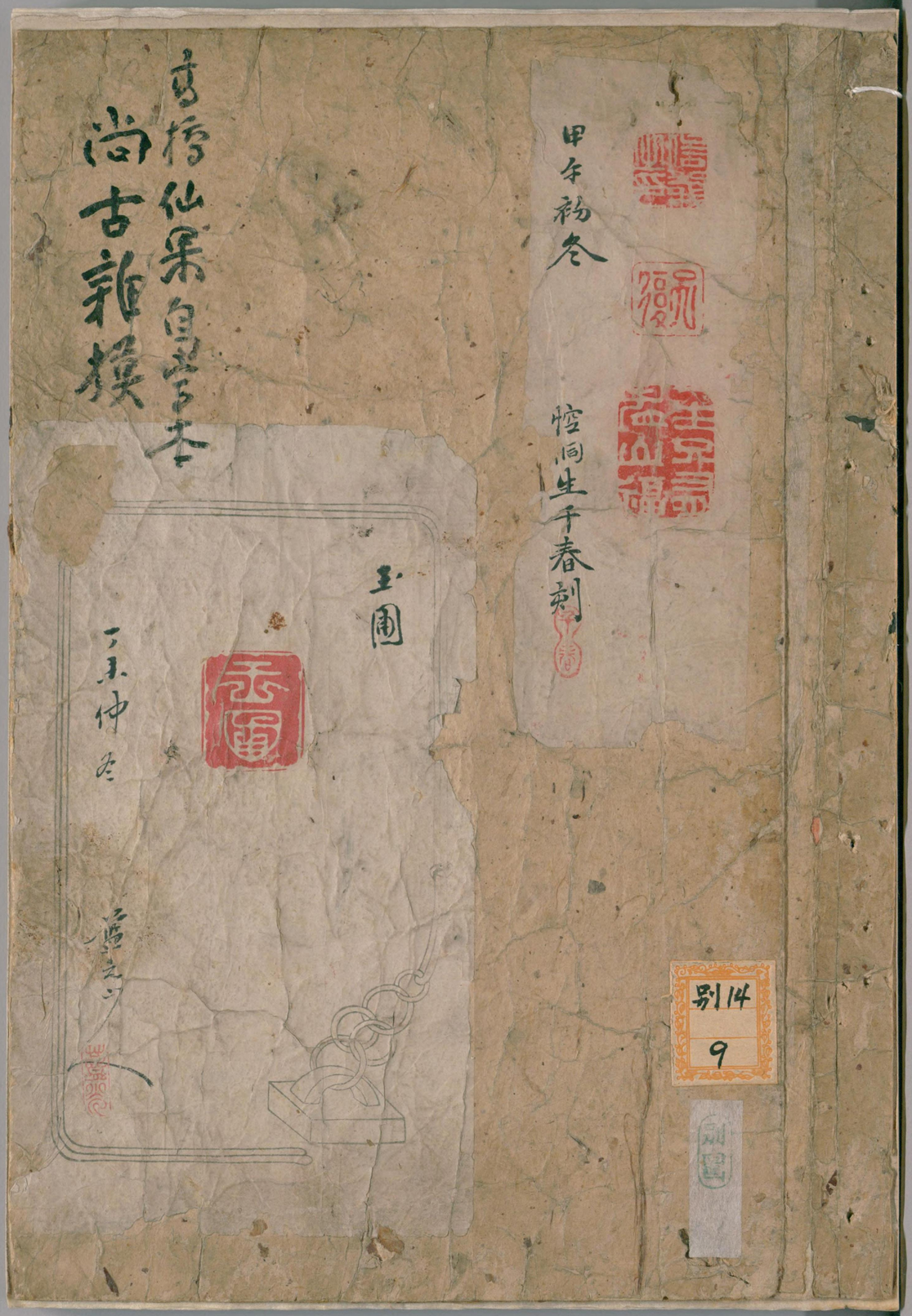


国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

尚古雑摸

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

14-9

国立国会図書館

国立国会図書館　　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

大臣　摂政関白一人大臣乃上に座をくらべて二人をかく

摂家　近衛　九條　二條　一條

摂家ハ摂政関白を勤給ふ家にて大臣ハ皆摂家より出給ふ故に大臣ハ摂家の極官なり摂家ハ清花の極官なり摂家ハ摂政関白を勤て天子の御師範となり給ふ故に摂家ハ天子御元服の時ハ又ハ女帝ハ御成人ありて位に即給ふ時ハ摂政ハ高御座の御帳の内にて天子の御手を取て高御座へ引上奉る役なり摂政ハ唐土にて周公旦などより日本にて推古天皇の御時聖徳太子摂政をはじめ奉り皇子たちの御ほか摂政の極官なり清和天皇の御時右大臣良房公関白ハ実の叔父なれ共摂政をつとめ給ふ故に摂家乃筆頭とす

唐土にハ漢高帝の御時霍光ハ大司馬大将軍にて上官桀ハ左将軍にて共に御幼主昭帝を輔佐し奉りしが後に霍光ハ上官桀父子を誅伐して政権を一人執行ひしなり

清花　羽林家　名家　中納言参議

清花ハ清華三条　西園寺　徳大寺　花山院　大炊門

久我　今出川　右大臣を経ざれバ摂政関白に至ることなし又ハ花族の若輩ものゝ内大臣を経て摂政関白に至ることあり大臣ハ摂家清花ともに経ざれバ至ることなし大臣ハ摂家清花ともに経ざれバ至ることなし

西三条　中院　是也　あとて大臣ハいづれも三条の家なり

羽林家　名家　中納言参議

羽林ハ名家より昇て中納言大納言を経て三位と極官なり

大納言　羽林　名家

如きを大名の与力にのうて 陪令官衙位係員以下れる事也とぞ

羽林家 已上 中山 花山井 冷泉 六条 仏性 清水谷 小倉 橋本 松木 姉小路 綾小路 庭田 持明院 川鰭(かわばた) 滋野井 水無瀬 園 難波 白川 已上二十四家

西洞院 油小路 已上二十四家 名家 日野 広橋 烏丸 柳原 葉室 五室(まむろ) 勧修寺 中御門 清閑寺 小川 坊城 竹屋 已上十二家

羽林名家之外 富小路 唐橋 万里小路 竹内 冨小路 古御門 舟橋 已上十家

此外猶多かるべし 今名をしるさず

新家 といふ家あり 本家より多く家筋なり 松殿(まつどの) 九条(くじょう) 藪内(やぶのうち) 坊門 梅小路 平松 中院 冷泉 万里小路 花山院 柳原 梅園 千種 姉小路 桑橋 已上十九家

又 野宮 大宮(おおみや) 伏原(ふしはら) 押小路 春松 勧解由小路 梅谷 池尻 武者小路 庭田 山本 交野(かたの) 園池 芝山 長谷 町尻 万里小路 冷泉 町口 溝口(みぞぐち) 風早 中川 細川(ほそかわ) 富岡 已上二十九家

家同じく家もあり又大中納言を経てしかも次将を経ざるもあり経ざるもあり少中将を経ずる家もあり 羽林之外の諸家

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

【法躰人】法体の類を云　【法衣棚】武家大名の用也

【法物師】出家武家同じ

【師匠】師の指南しては寺などハ学問の上のぼる事法之をかかりて聚め

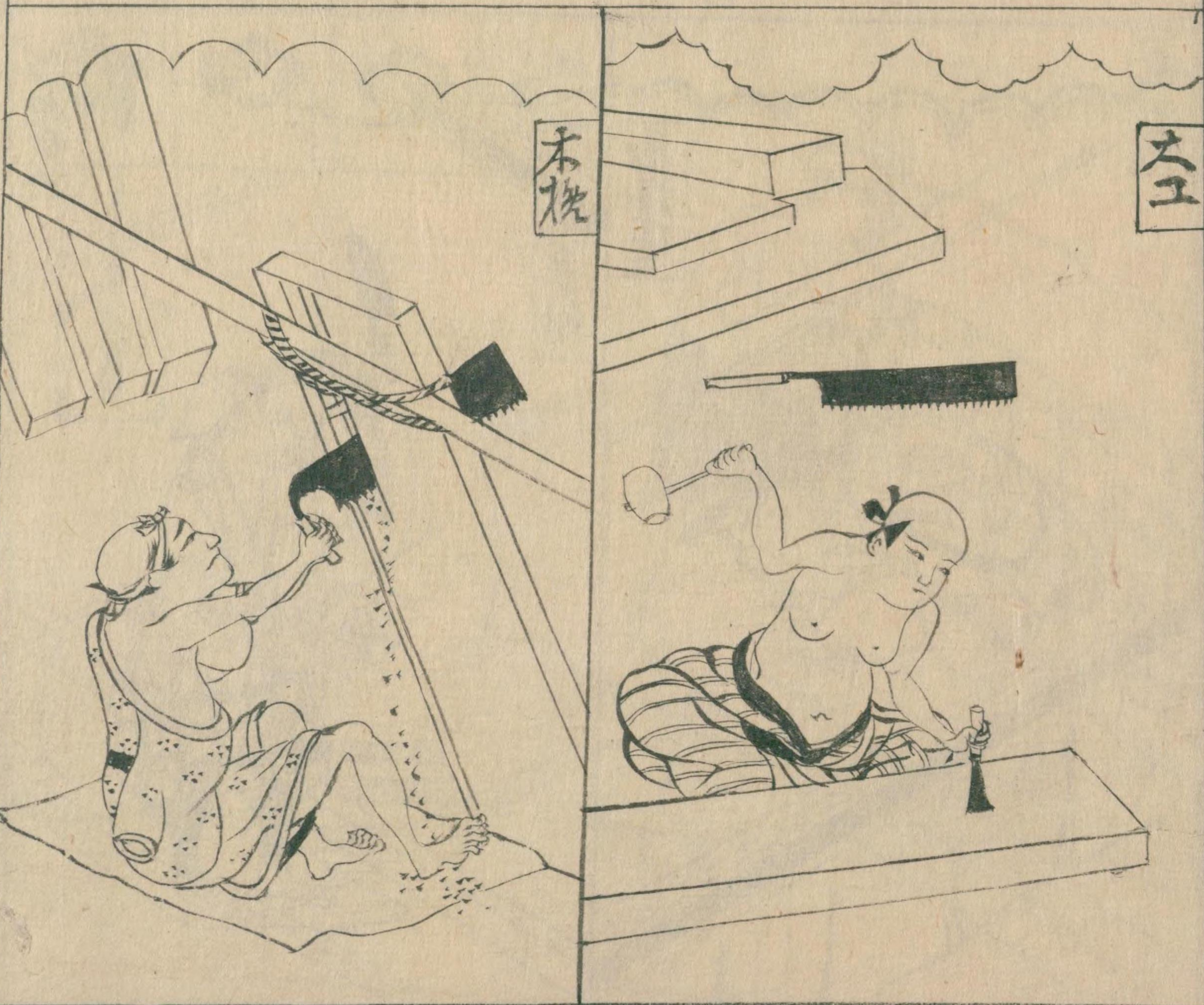
金銀にて儀の師匠とも師の指南をいふ

【独化】法家或ハ学業の司にして法化を教信し将ハ業を文士といふ

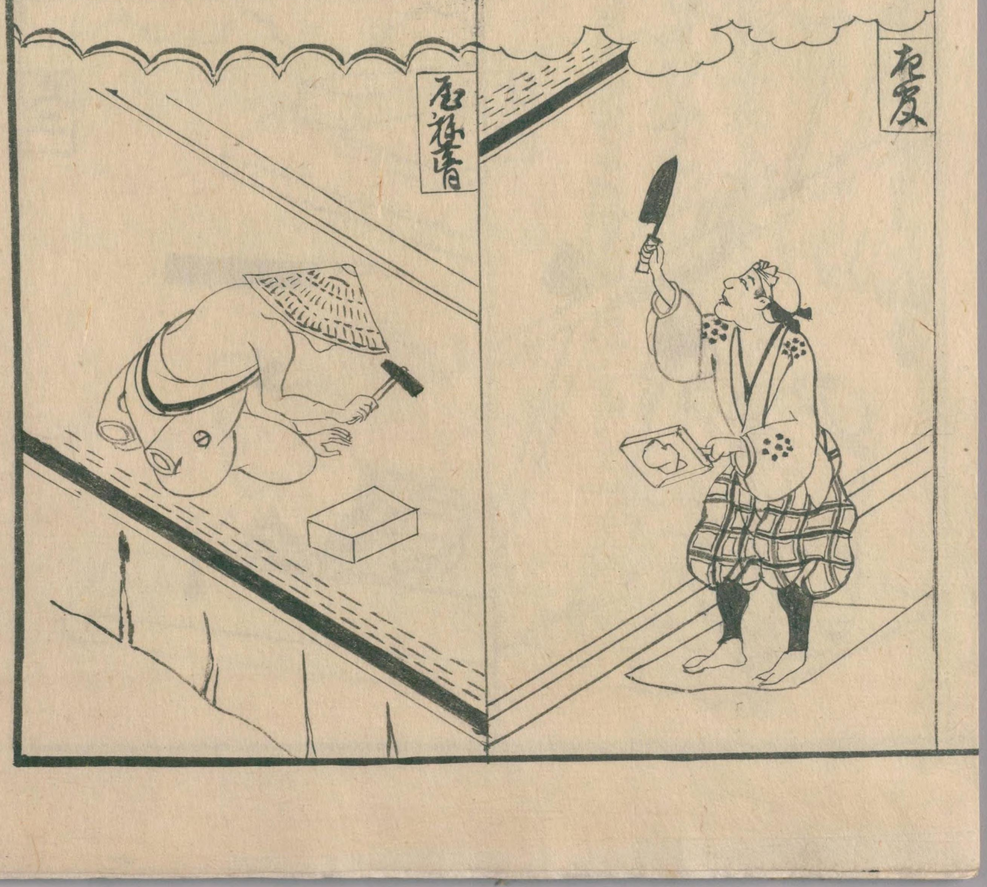
職之部　弐巻目

【大工】天竺より始れり日本にては人皇三十二代の御崇峻帝の御宇百済国より番匠来て造しめ給ふて始れり其後聖徳太子伽藍を建立の時飛騨の内匠是大工中興の祖なり

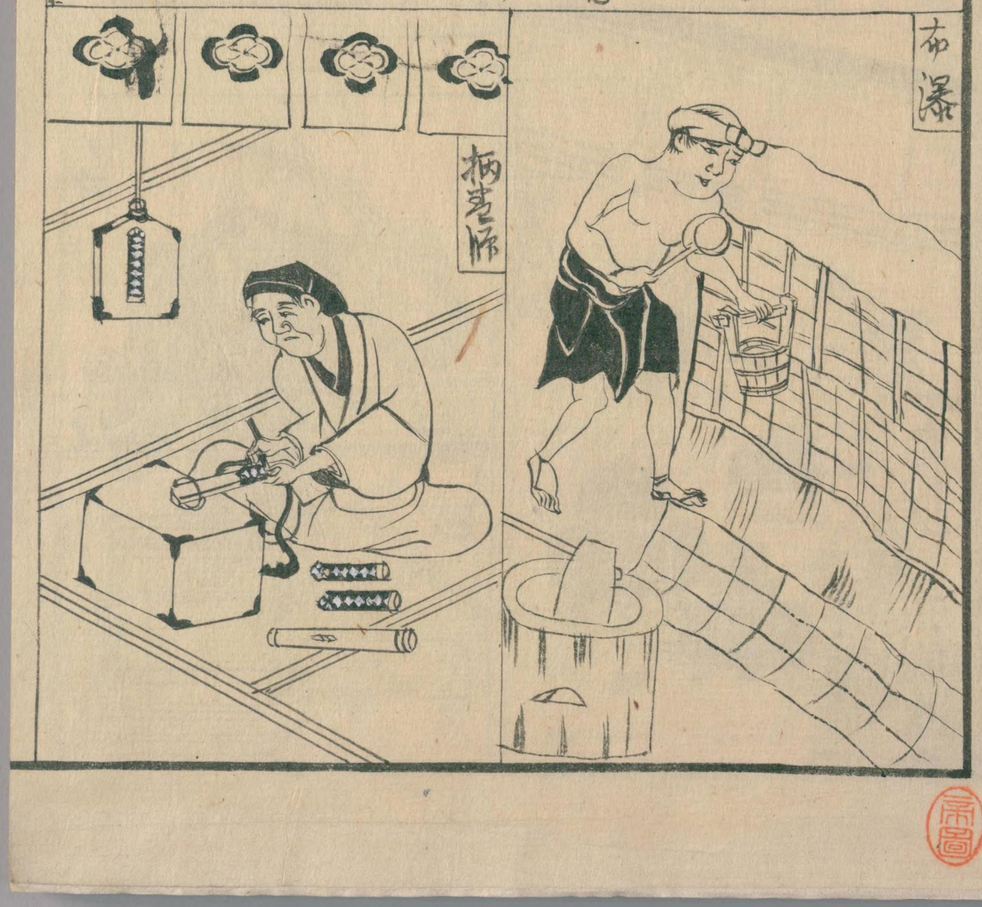
【木挽】聖徳太子飛騨の内匠に四天王寺を作造立の時大木を割べき器



亜をめくり終て居る所へ
出来あがりを見にて参り
たる手間賃を請取て渡す
海に飛入てをよいでつくもせ
ます〳〵よくおよぎ〳〵
ぐ〳〵まわるそ張のそこぬ
とうも張師に頼て往す
仲間といふ物をよく知て大
抵みよりまわり
猶ゆるり寝るのすとつ
ムやれやれめでたし〳〵



とゆるりとかんこんにすむ
つを出して女どもとうふ
売に
屋根葺
て忘るゝ
めくるこ指図本の枕音を
感心にいふ音取当屋音
師ばんよ往て
布屋
さう
ーのそうふ張指張
もう来ていふ事ばかり
あり今いふ事をもつて分
ーと云湯の札を売に往
の服装あつとれをとり



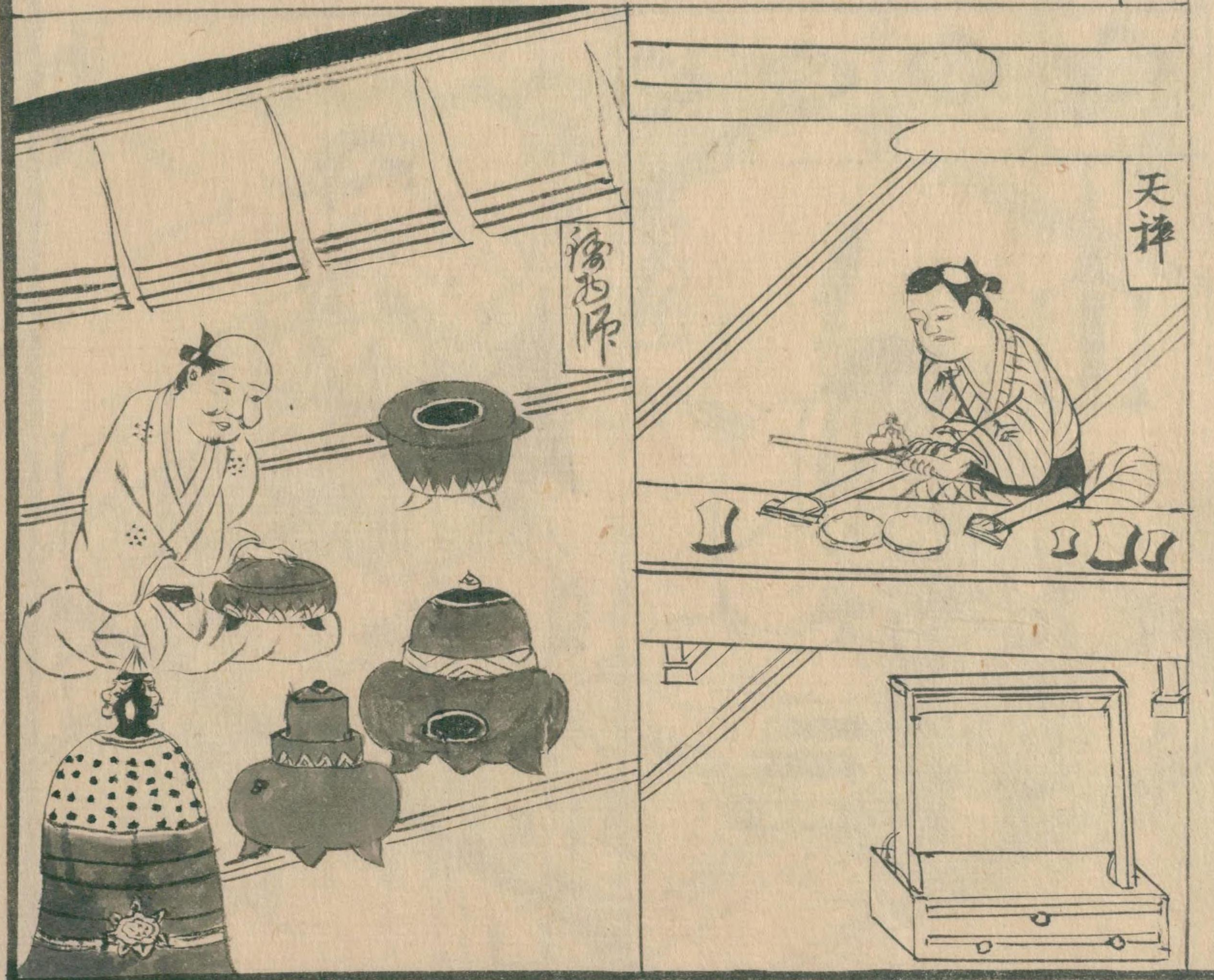
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

てんさらし又代をも遣にせしは
さらしちんとぞや

柄杓師

小板檜の柄に麦わらを
よりかけて作り麻柄杓を
外に売しにあり

天秤 鋳物よりいづるとよむ
代十匁又は十二匁も分目京
の天秤屋 鋳よりも堅固
に見ゆ 松本宗心より三条大
坂今橋にあり 代九匁又は
十匁分銅はかると云へ



乳子買 子どもして四五歳の
乳子を買たつまはむかし
よりたるゑいなべし然しぞ
そのはしかる里子をあつかる
とはぶめかし絶えば里子と
抱手を乳をのむる女里子
とりもせのそこなれども
其の外乗ることもむ手柄
京人も乳子買といふものあり
花入口の為替はせず別段
乳子を引つれて往来ともに
ともなく呼てみて乳子買
ちごかきとつめきめぐる

国立国会図書館　タイトル『尚古雑撰』 請求記号 本別14-9
ガラス使用

かゆの女房人をあくるあれとそれ〳〵の挨拶ありて爰をやう〳〵ち[illegible]て居のうちそう〳〵

[illegible]婆 こまろがごとをおけよ[illegible]あるまだんぎほう〳〵とるもの一皆をそこの如ふるとしもとめの[illegible]又い泉水にまろうなくさことする也

山指良 女のうつくしきをかものをといつぐ山林の皮ゆるうと[illegible]の所うもうまうるをを名おとを

石臭女 所の法を一里一駄の外当さうとし

一筆四

砂去蔓 瘦手ふ縄修をかけて去とおりかをもつて蔓よ[illegible]る一人して行正をひらめる住宅の人ふ[illegible]人よ[illegible]法をもめさ[illegible]御造意あくしてそうを西をとろうは共手筆ぞう〳〵云天寺の外よそうて砂十五石利二十分云二十五石[illegible]ふ[illegible]をとをたのををたようくうをみるとも

馬方 うち方の御ともて一面[illegible]私仕ふ私ふ[illegible]ごとく

[illegible]師

元禄三年出板
人倫訓蒙図彙 七巻之内

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

ガラス使用

むかし～吉内の伊勢をぜひ～ふ、従つる歩とゝゝ
上様方へも参のぜひ一風を吹て江戸あたりよりて打ちて
当世出来色ありそうそうそうそうそうそうそうそう
あり先行ぬくふら風俗ゝゝつる浜方に門出佐賀町と
打るゝ高みの出来様祝ゝゝつる人のまくらを
曲直つるゝ踏ゝと鞍の落されとうをいつる
初の西皮鼓ゝゝ新ふあとゝゝ
ゝゝき船の荷をとゝのうにて賣買世渡るゝとゝ
それをおそゝきゝそ叶をあくるゝとゝ
よゝそつるゝあや

元禄五年壬六月　作者　庵野宮丸斎
庵野流拳法一巻五段之文久三年癸亥三月　澤流覚一至陽之遺訓五

定

一　若輩之二百年已前

一　悪小無礼之事

一　人ハ十人ニ而

書之面之通

富山人金

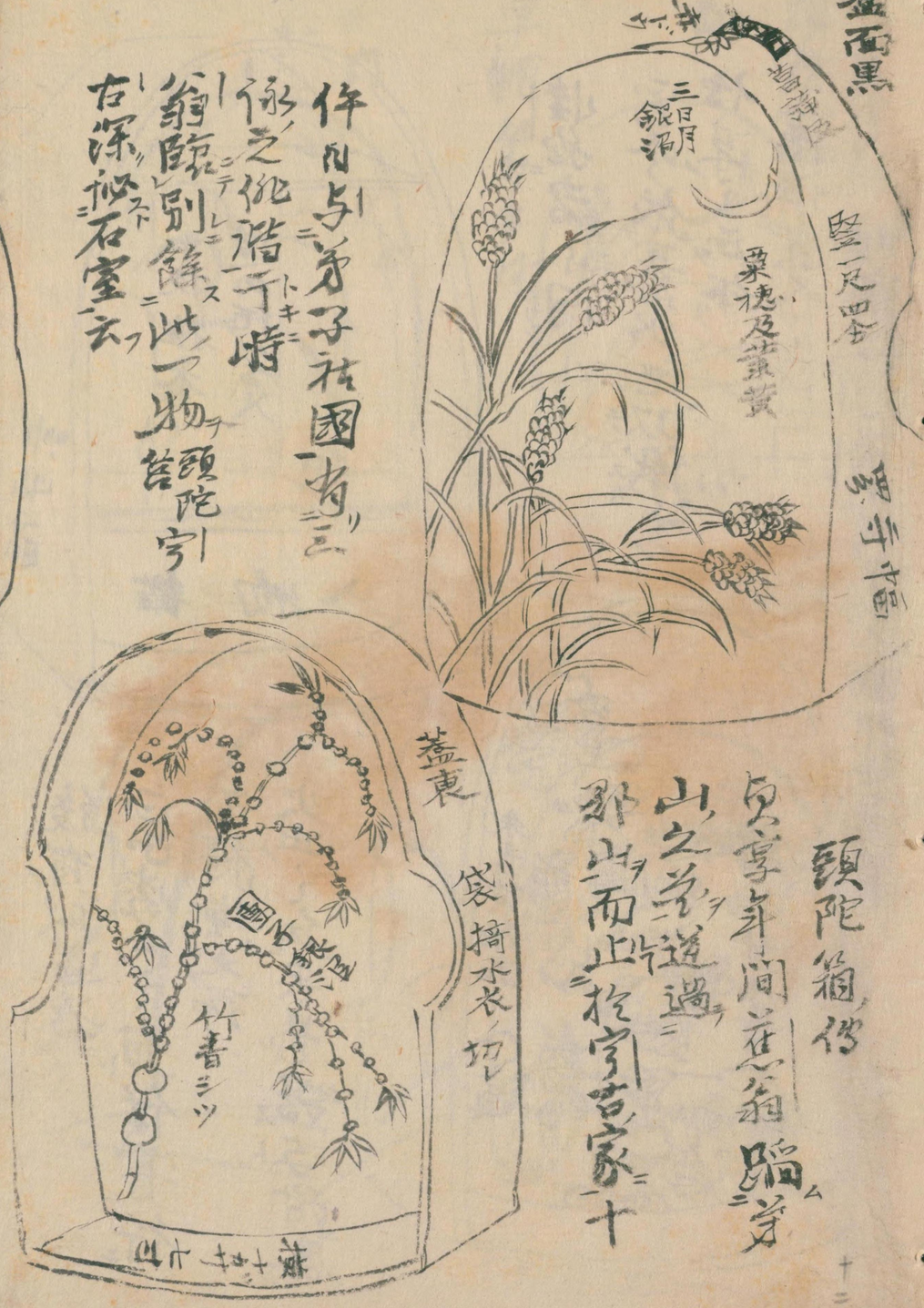
禁
無断
寫々
ロロ

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用



蓋面黒

仲尼与弟子杜國南ニ遊ビ之他階ニ下ル時翁院ニテ別餘ニ此一物ヲ頭陀ヶ岳深谷松ノ下ニ石室ニ入ル

頭陀箱 俤

貞享年間庵箱 踰ムル

山之巻ノ道過ギ

那山ニ而止ル於宇治家ニ十

十二

惟抱者上天不肖
爲今依其家法以織之
傳來之正第
儒祥寫

御家　人譲中横宮本氏蔵　明治廿七年四月

後有敬遂爲
正正處士之有僕習行
而得摸之節
火止之丘宴是落地下与附属

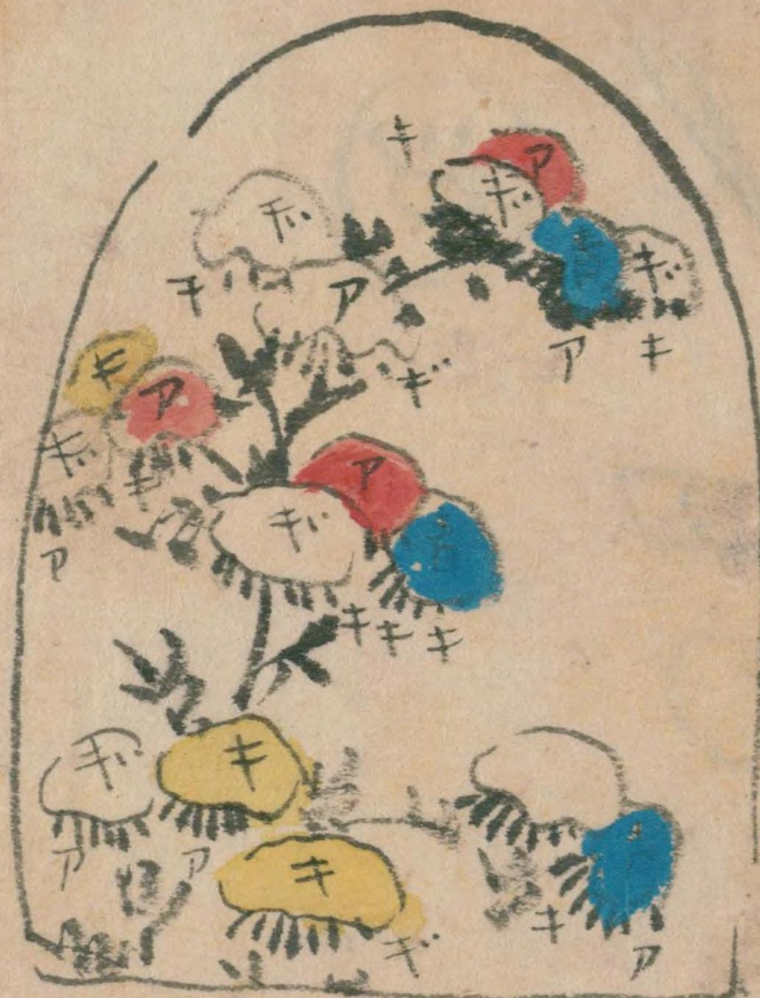
大日成幾　善喜丈鞍　楼千　中村　地夕口

麗阿弥筆

蓋

卓地　紅紫

内　ぎン



国立国会図書館　　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

右乃書きその文章

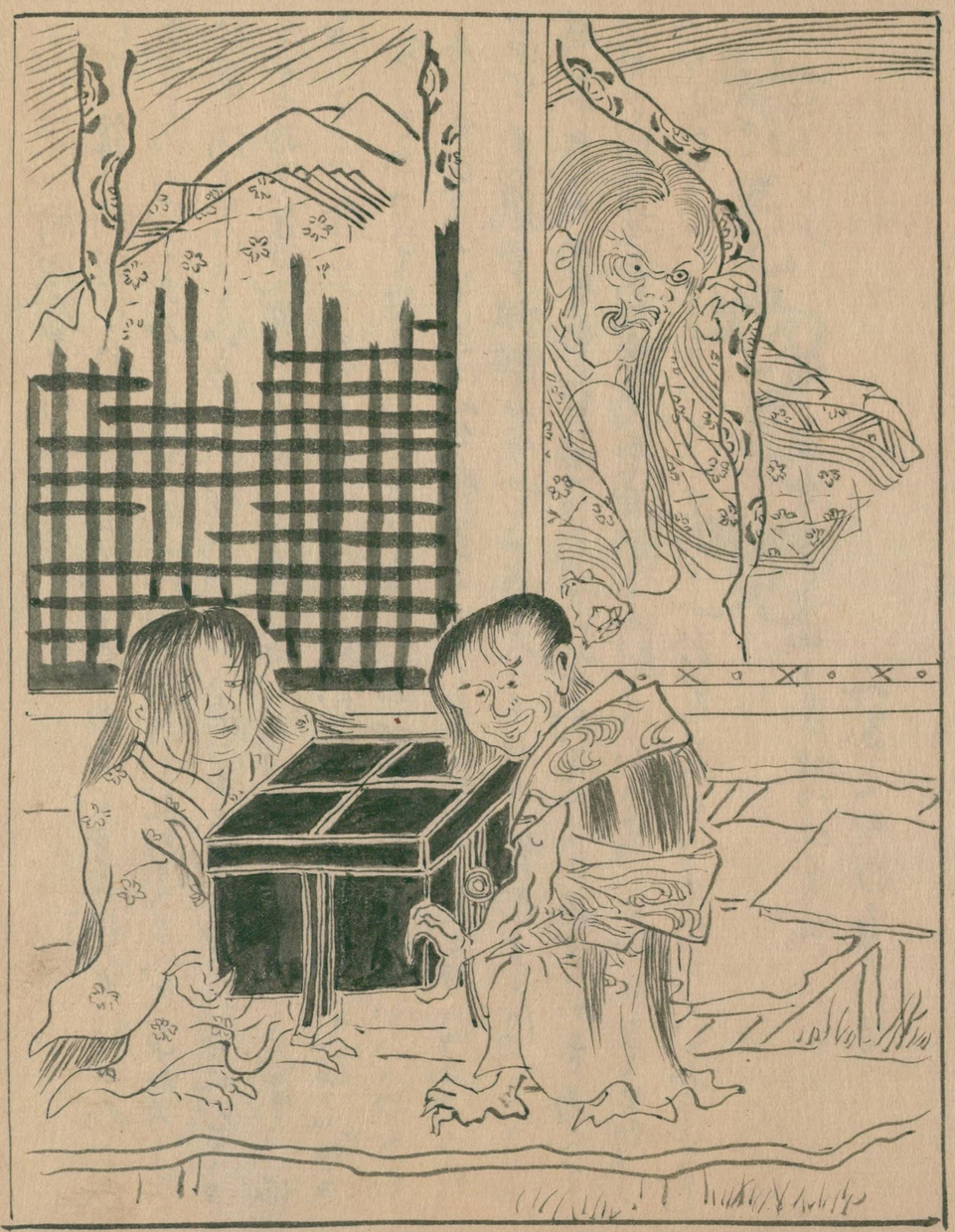
苔をひらの糸立来ほうかそのわうらふようき敷乃あれふわり鬼をむ
うういふにそくてひとも力もてくてひさしくめうち若宰相とつふ人ふみきに
ありていまとつえれてわうち乃人とそいうしく人せいかてなれわれをおそかく
ふらそわうりてえるに度のま枝をけくふくひの紙もみきりぬまふう
くれひて人乃ねの一表服のかうとをあけてのわうぬあく入めをからし事
も乃人へやうて記そうのふうかくて夜中にるるうしよさおくの人よれぬ安
わるそのとも笑一択をれも宰相月もみりけもすきふうかさるやかをわてみきうれのそそそ落たまふ
とこしやさほうゆてふれへやうをも地をいふ宰相こ事へてわまいお侍へありて
わうあるふんちいふろゆ人よそをわうをしそをそふさりてのまをて
いそれくれきふこをほうもよ百人をかうし忍力ふ
あさかうくさて
さほあうさうし
いくへけうと

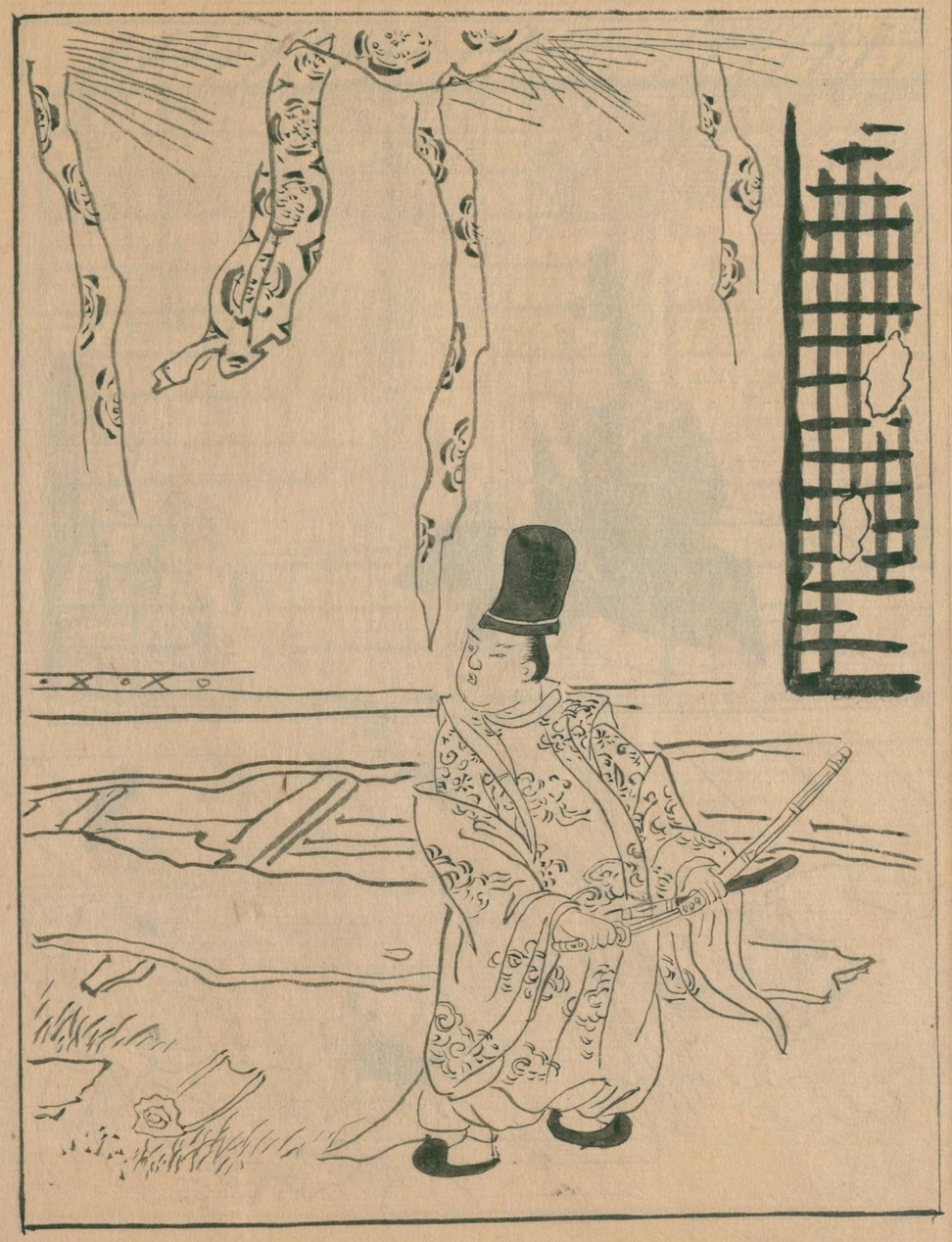
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

土佐光信筆　高家所持巻物前後略

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

繪巻物通覧

東大寺正倉院宝物図　二巻
熊野新宮神寶図　一巻
法隆寺所伝　一巻

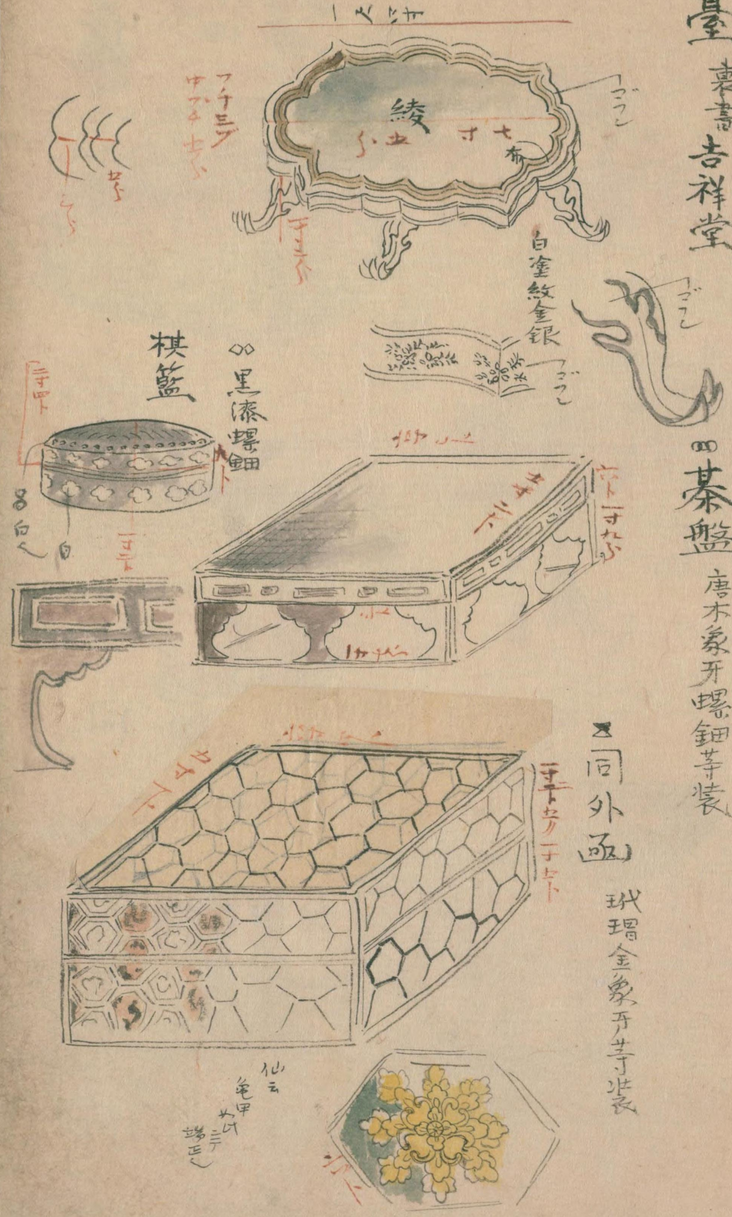
同次乃至の文章
むつ篠立将軍これとらと云人やうてやきてきうとのふれよ立々て月とうるに内お世しきお軍伊るにていらふ文あてわ身苦さかく紀伊さう仏もうめとなん伊もとのうあへと云いるう人をかうちてうてハなくてむふをき事とけんとふ村内よ多そて我りかうて人今こ立きてたなもたへへさ人をれ思ひをしまいつ名ありのひうたけきれいるれ思ふりそのの思ひて卜如ようけ記せのとよるへともなさ将軍なとう生へさらんこをりたとふ寸をそーきみをとかきあくわのかちろうこ云のひうてちくにとふおうりうちいさきかう記うとうきいうてあふお宝お我わけてのち人とやうてもとうてちのひのまふ

仏事をそくふ〳〵記つのうち
みふこ如のまうさ

文禄甲午年千八百四十六　将

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

正倉院寶物圖　二卷



○臺　裏書吉祥堂

○○棋盤　唐木象牙螺鈿等裝

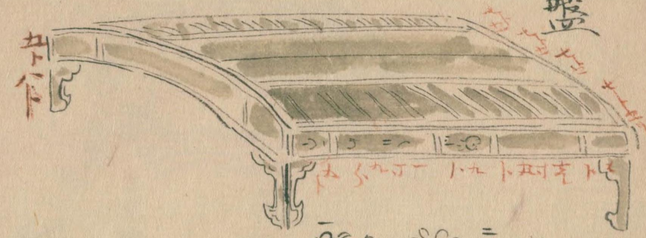
高橋藏書

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

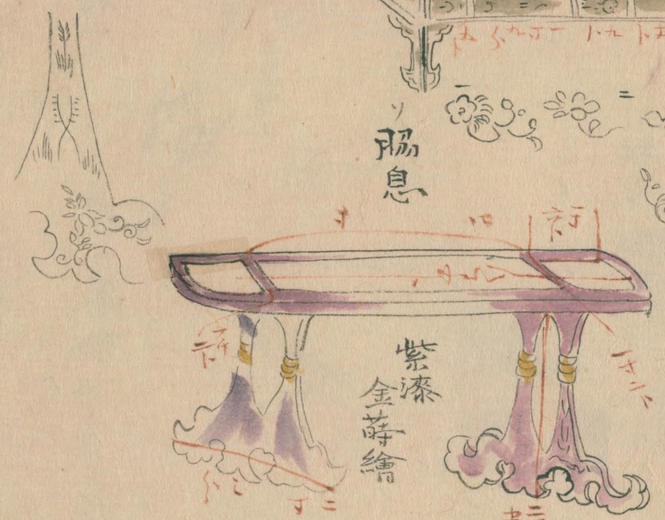
ガラス使用

ス 雙陸盤

唐木
螺鈿
象牙
裝

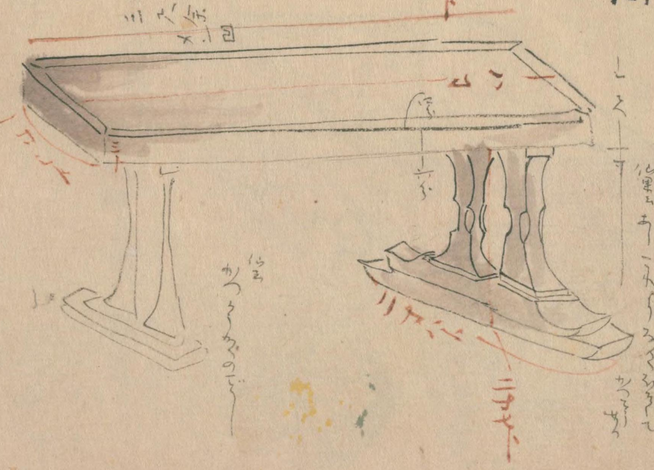


ソ 賜息

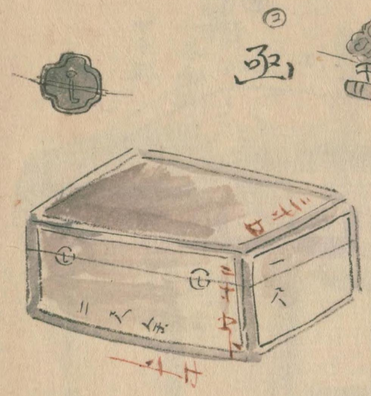


紫漆
金蒔繪

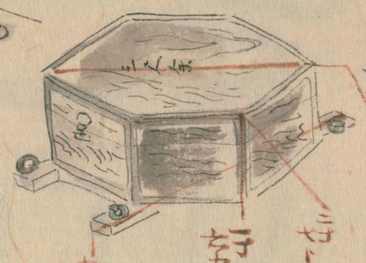
ソ 同



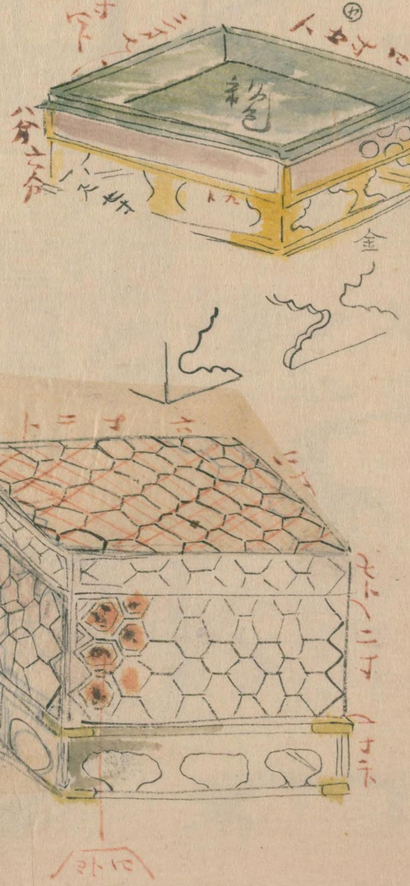
㊂ 函



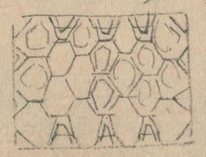
㊃ 寶盖函



㊄ 箱

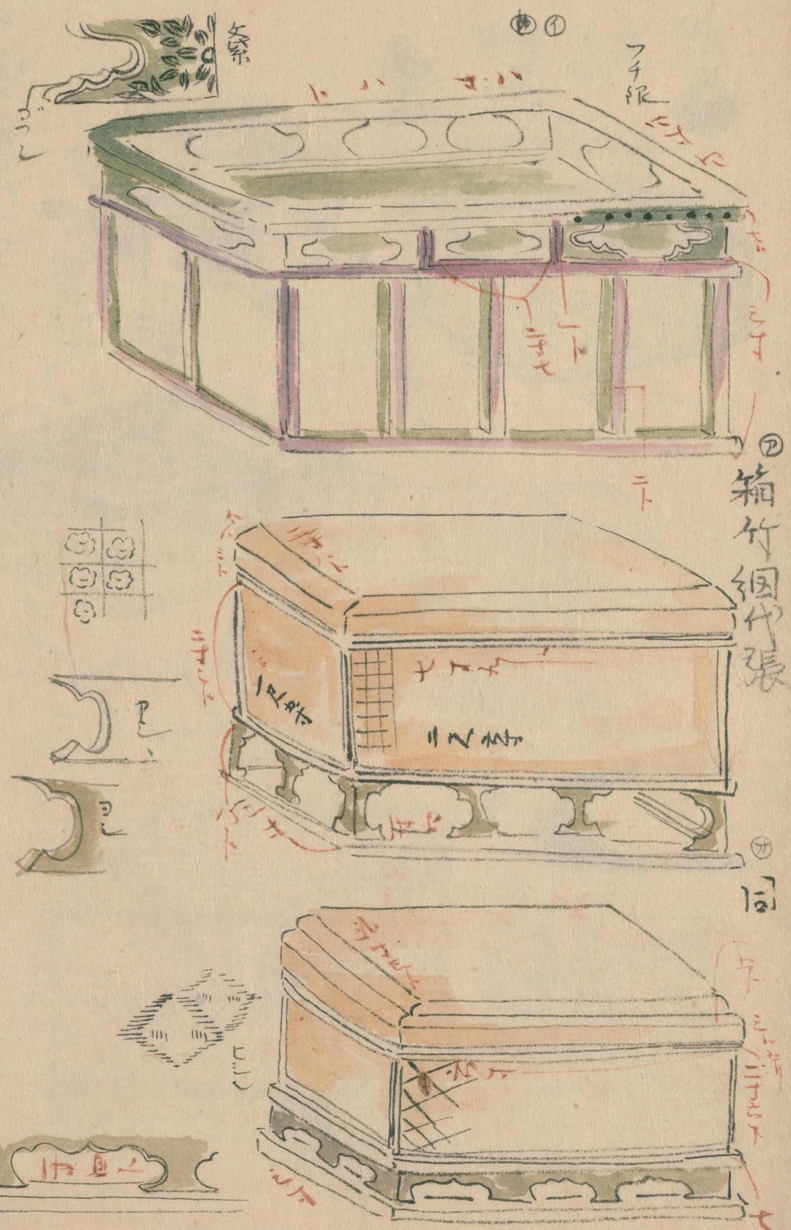


玳瑁
象牙等裝



国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

ガラス使用

以上一巻

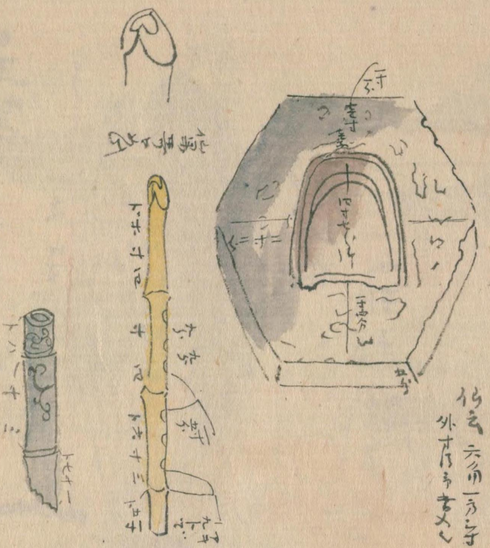
瑪瑙石磬

五面寸法如図

金銅 大如図

仙台図畧

瑪瑙石硯 中嵌別石 大如図



仙台 六角一方ニ子一方ノ外ヲ取ル

大佛開眼筆

仙台図畧 軸タイマイ牛ゴトシ 文治元年八月廿八日供養開眼 軸ニ刻ス 天平筆

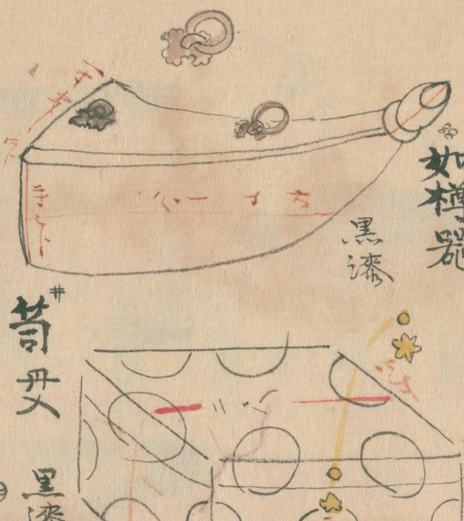
鈴 金銅 仙台図畧

唐紙 仙台図畧 中一人ニ付一帖ノ割

硯足 如馬脳大如図 仙台図畧

熱海ニ有リ 長曲尺 九寸ヨリ 一寸ニ付

経六寸ヨリ許ノ塔ニ立ル金

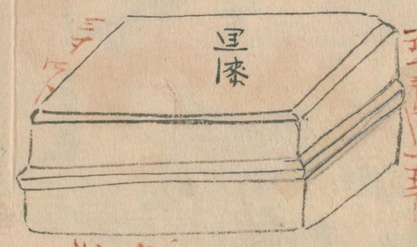


如樽器 黒漆

菅枡 黒漆彩色紋

同枡入 黒漆

同 文書入



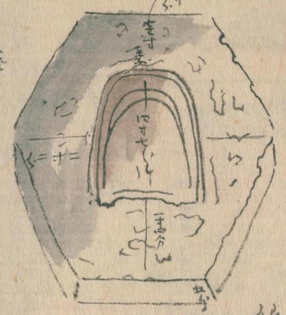
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

以上一巻

瑪瑙石盤

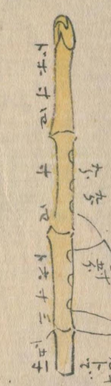
五面寸法如図



仙台図畧

縦六寸八分許 横一寸五分余

金銅 大如図

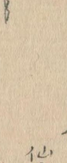


仙台図畧

瑪瑙石硯 中厳別石 大如図

仙台図畧

大佛開眼筆

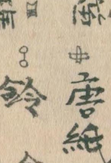


仙台図畧 軸クイマイ牛ノゴトレ 毛穎ヲ此ニ納ム

文治之年八月廿八日開眼 軸ニシルス

法皇用ヒ給フ 天平筆

厭足 如馬脳 大如図



仙台図畧 細緑二条アリ

長曲尺 九寸六分 一寸二分 アツサ

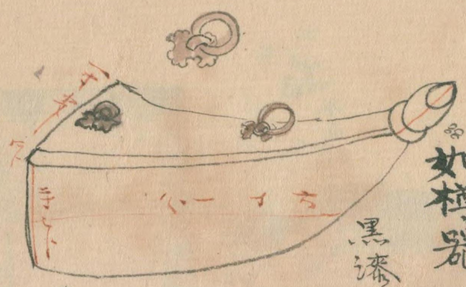
鈴 金銅 仙台図畧

唐紙 仙台図畧 中二人余トアリ

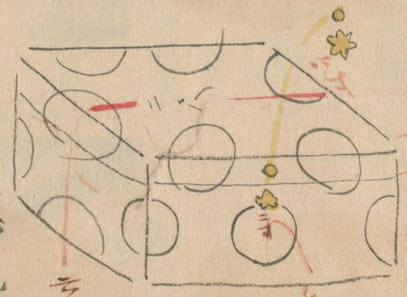
十枚ヅヽ

白

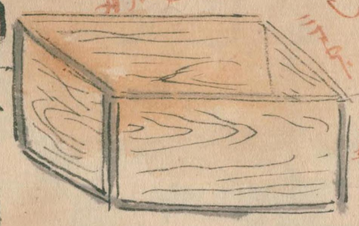
如樽器 黒漆



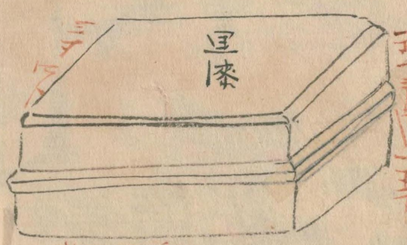
筍文 黒漆彩色紋

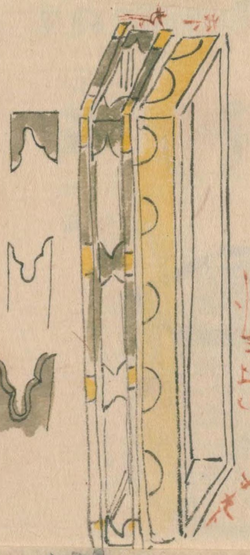


同冊入 硯



同冊入 文書入





国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

瑠璃器

同壺 玉器

如意匣

倚懸

同紋 紫地綾錦

冠箱

同蓋

玉器 中 玳瑁盆

玉笄 玉色三品

玳瑁杖

玳瑁

同

玳瑁如意

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

臺

一尺二寸

竹器

㊀

葛籠

㊁

花籠

竹器

柳籠

木器

仙云以下すべて一ノ方ヨリ

同

同

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

木器

瑪瑙火爐

机

竹器

花籠

柳箱

竹器

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

臺

竹器

㊀

㊁ 葛籠

花籠

柳籠

竹器

木器

㊀

同

㊁ 瑪瑙火爐

銀獸爐

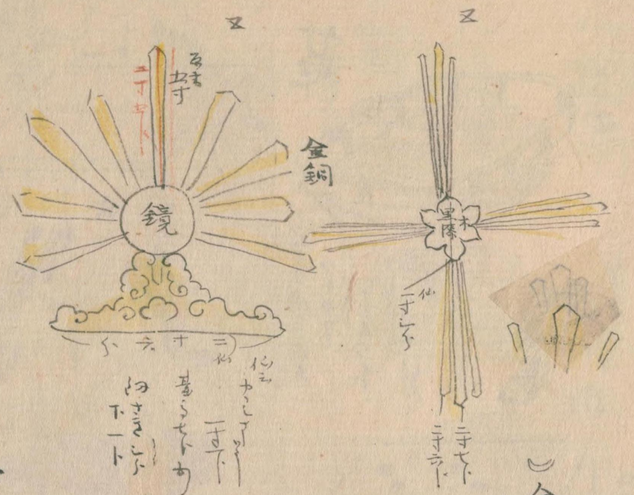
銀器

木器 十徳図

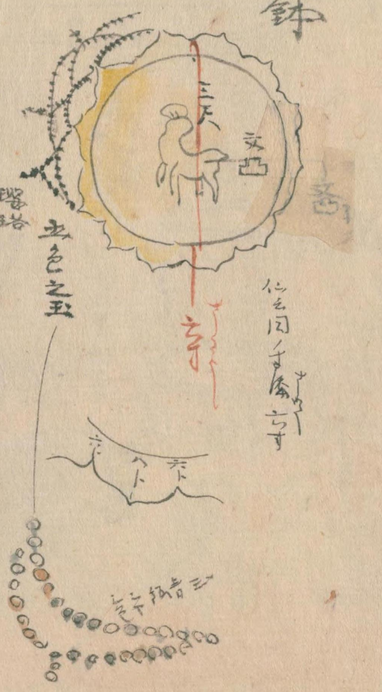
裏

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用



如意寶珠



抽下脫宝字紙

○御衾地文 御衾長七尺八寸五分 總横幅六尺分但五幅也

丸文平綾入綿十両 私ニ按ルニ両面ノ錦ト云物今世ハ絶タル ニマ常世衣文ノ故實ヲ 目録云御衾一條赤地両面錦文輪鞜磨裏萌黄

習フモノ段子伝物ヲ以両面ノ織物トシ是ヲ秘説ト称スカレヲ廿(ヤ)晉リ知ルコトキヨシサヒた両面ノ錦ノ歸ヲ段ニシ被ラシムル事イサヽカアタルコトハソ尚近カラシト

モ云ヒ狭固テコヽヲ圖ス

○御入帷 總長七尺三寸幅五尺二寸但四幅也 目録云御入帷一條白織物 有伏組

流布ノ文様トイヒモ寸法共伏組等其躰モシハ當世ノ入帷ト云モノ、長サ短サニ圖ニアリ

違フコトモアルヤ又五色ノ伏組ノ躰ヲモウツシヽタメノ圖ス

○差分菱ノ文様 月録云御衣一領緑小葵浮織物裏差分菱萌黄打綾

私按ニ表ハ月録ノ如シウラノ文差分菱ト云モノ今世ニナレヽ故ニコレヲ圖ス

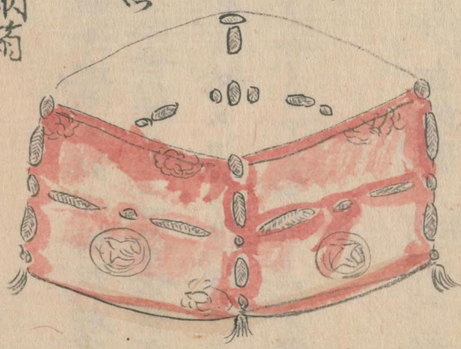
○地摺御裳 長五尺四寸三分 月録云地摺御裳一腰表小葵平絹裏打絹御裳叺

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

文霰唐織物　私按ニ目録ノ所見表小菱平綾裏朱綾ノ八字御書ニ相違セリ今現存ノ御裳ハ地白生ニテ文ハ遠菱ナリ此模様古躰ニテ綾欤文ハ唐草ナリ此平緒目録ニハ載サレド御劔ニ指ノセタリ古キモノ、サモカノ如ク文様ハナヤカニテ色ノ取合モ又メヅラシカラレヤト思ヲ図ス

◦納袋　深五寸二分　底五寸六分　目録ニ納袋面赤地錦裏疑冬唐綾村濃糸伏組括有之　私按此袋上差袋法モノ欤古ク用ヒシカバノートニ云ヒテ今世ニモ形ハ残リナカラ其用ハ廃ル説ニアリテサタカナラズ今ノ袋ニ石ノ帯ヲ納ル支實ニ見ルテフレバ其用ノ證ニモソナヘントテ是ヲ図ス

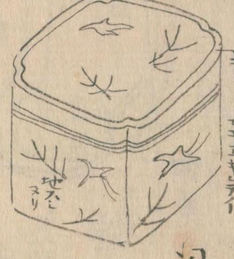
◦御笏　上厚二分半　下厚一分七厘　形如図　目録ニ御笏一枚納箱



白紙ノ如キ物

一合ハ白薄様一襲裹之　私按ニ御笏花箱等ハ高代形ニテモヤヲラン皇国ノ

◦御冠箱　總高一尺二寸　九分横一尺七分四方

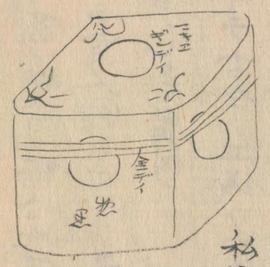


◦御劔箱　總長高サ四分横幅四寸四分

箱黒漆金ニテ

目録ニ御冠一頭納黒漆錄蒔菅有白鑞置口錦折立　私按ニ冠桶ハ先ヲカナルモ或ハ六角ナトモ古キ形ニハアル由ニノ箱ハ四角ナレユヘニ是ヲ図ス

◦御靴鞋箱　惣高三寸縦幅三寸九分横幅三寸九分四方如図



私按ニ柳筥土高杯等ニナラヒ挨失セシモ今ハ図ノ如キ黒漆ノ箱ニ納メラレタリ此箱金銀ノ置口アリテ其文ハ錦ノ龍鱗ノ丸ナリ是則今ニヲヲ平文伝フモノ欤自餘ニ見ヘタル平文ノ箱異ナル欤考テ猶平文ノ差異

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

鞋ハ近キ内柿笘ニ納レヨシ而レニ此笘ヲ用ニシテ實ニ古儀ナルヤ或ハ再徴ノ度新ニ制ラレシ物カ尋ネ究メメキワナリ又輪ノ中今ノ俗ニ丸ノ中ニ何文ニ文ヲ居ルコトモ上代ハナキコトノ甘ハイデト古代ノ器ノシカモ異國ノモノナランカレト見ヱズ漆器ニ輪ノ中ニ文ヲ居エルコトナレハ此ニハイテ古今ノ正儀ナワキテハシカタメニシヲ図スル

瓦御硯

高七分緣高一分五厘足高八分徳仲如図

目錄云瓦御硯一枚 私按ニ今世ニ猿顔ノ硯ト名ツケル物ヲシルニ其形全テイサケレ共全ク鰐（行丸）ノ等シケレハ古ノヨリ云フ猿顔ノ硯ナトキコエシ物モ居ハ芽類ナランカシ猫古記ノ所見ヒトノイヒ又若ハザレハ旦テコレヲ図スル畢書ノ如ク筋ニホリタルモノナリ 塩尻六巻ノ三十六ニ猿頭イアリ見合 太平墨大ノ末ニ出見合

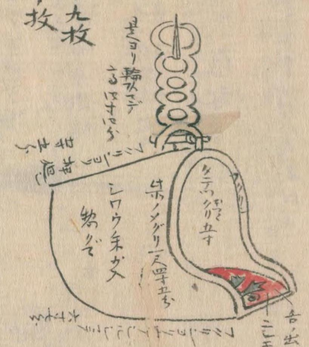
御平胡簶

目錄云御平胡簶一口 梨地蒔繪螺鈿 文相兼 金銅覆輪 私按ニ普通ノ胡簶ニ比スル時ハ其形スコシク大ヒナリ因テ是ヲ図スル猶ノ緒間塞ノ房係或ハ矢タハヲ板ナトヲ物ハシエス矢ハ紙捻ヲヌシテ猶今トイフニ

其躰新古ノ儀タシカニ尋ヘキ事ナリ

御鐙 寸法在後

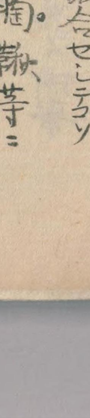
目錄云御鐙一具 金銅鑄物 私按ニ鐙ノ内省ノ取赤地ノ錦ヲ（脚脱カ）ヌテ張タリコノ錦キ大方ハナキカ如キノ鉢ナリ



図表裏ニツアリ

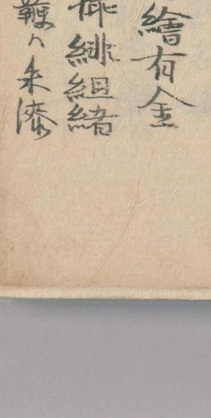
凡唐鞍ノ鐙紫束ノ書等ニモシエシハ今ヲ論鐙ナリ此神寶ノ鐙若シハ克リ書シ傳ヘ童鐙ナト称スルモノ欤因テ図ス

杏葉 大十九枚 小十枚



私按ニ此杏葉ノ内赤地織物ノヌテ張ル（これ）ヲ取合セシテソ錦ナルヘキトハ知ラレ又目錄ノ文ノ中ヲ考フルニ斑脂（こんれん）鞦等ニ附ル料ナルヘシ杏葉ノ画図ハシルヨヲ得ヤシ尼今現ニ其形ヲ図スル

御鞭 寸法在後



目錄云御鞭一本 地蒔繪有金銅上下鐶藤ノ白薄様捕縛組緒ヲ付ル 私按ニ現在ノ御鞭ハ朱漆

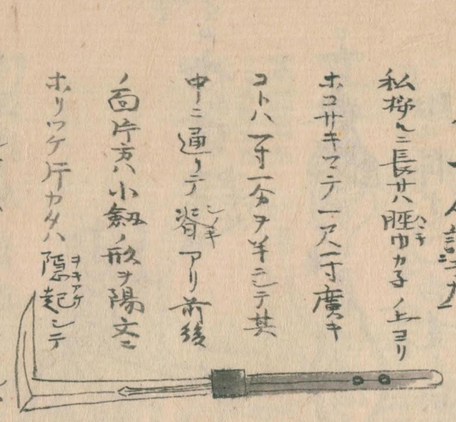
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

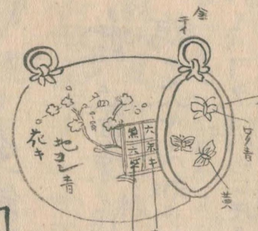
十リ 日録ニ違フ疑猶後勘ノタメニシテ図ス

日録之外

○御鐘 神倉御神寶也 すゝ入註ヲ九



私按ニ長ハ脛ヨリ踝ニ上ヨリホコサキマデ一尺一寸廣キコトハ了一分アキテ其中ニ通リテ背アリ前後ノ面片方ハ小刻ノ紋ヲ陽文ニホリワケ片方ハ陽起シテアラハシ皆長キ事四ツ八分之心ノ長サ一尺二寸二分又脛ノ地カラハ是リ色ツキテ其性ハ見ワキカタシ此ノ鐘ノ如キ名ヲ神人社僧ノ詞ニ鎗鐘トソ云ヒナラ(ワ)ル



日録之外 ○表袴 私按ニ古今七又文ノ飛ヤウ等ヲヨウツサシタメノ是ヲ圖ス

物ヲ好ノ立未等ハ共ニ金ノ造リ物ニテ其メタリ閉陰スヘキ所モナク又何事ノタメニ用フヘキ物ニトモ考アラ得サルユヘ是ヲ圖ス 私按ニノ文様立取合セ又文ノ

○御劔 長太者以押形模之 日録ニ御劔二口有金鳥頸鐔金銀輪鋒銀水文金麒麟鳳凰彫物録玉筥入瑠璃紫革足緒 私ニ按ニ今ノ神劔同録ニ聊ノ差イアレ欤サレ共鳥頭其外ノ模様等ヲ知ラシタメ大概圖ク猶其躰ヲ色トリテ是ヲ附テヒラカニセントス 録レラキタル所ニイブカシキコトノ多ケレバ其ノ基ヅキニ圖之

繪図外覚書

平文 日録ニ御鏡ニ面ヘ黒漆平文箱ニ合有白鑞置口錦折立 私按ニ此ニ云フ平文ハ今ノ世ノ平文ト云物ニハ少シク違フ疋筥ノ面ニ何ノ文モトリテ蓋ノウチニ桐ノ葉ヲ文ヲ銀ヲウスクヒラメテ押付タルヤラ是ヲサシテ平文ト云ヤ此外同録ノ中平文トアルモノ皆平蒔繪ト云ハシカ如キ物ナリシ等ハ今世ニフ平文ニテ此筥ノ平文猶古躰ナルヘキヤト 録シツケ又

御平裏表 日録ニ御平裏一帖赤地小菱唐綾裏遠平綾中部流文後有伏組 私按ニ同録ヲ以テ是ヲ考ルニ唐線綾トニコハ元来織物地ノ辨ナルヘキ

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9
ガラス使用

次中古ヨリ傳綠綾（かく）（亦是ヲ卜降ヲ以テ文字トスルテハナシ此ニ云フ所ノ傳綠綾ハ今指シ云フ如キノ文ハニエズヨリ穴丹メタキコトナリ又流文綾ニテ讀テ其心ヲ得ズ流ノ字疑フラクハ綸ノ字ノ誤ナラン綸ノ字誤ナルカ似タルユヘニ錄シつケヌ

（割書）御鞘 同錄云蒔繪鞘一枚薄蒔手文金物 緋組緒有之 私按ニコノ神器今闕失セリトイヘ尼同錄ヲ以テ考ルニ是神寶ノ鞘ニシテ征當ノ鞘ニハ甚緒モ等シカラシ猶モ試ニ書サレタル神寶ノ鞘ニモ此制マタ善異アルカ同ニ是ヲ錄シつケヌ

右幸依得幷見之便宜
為後勘所錄如件

享保十九年十月日　　宇治田忠卿

熊野新宮之神宝者往昔行幸御幸之時被寄附之御調度欤當時在御内陳如神宝神躰云々將軍家為御沙汰紀伊中納言殿委作圖被献之宇治忠卿字平左衛門紀同殿家士也奉行之此圖授予忠卿語云毎度被寄附之時有寄附状亦今有之云々又紛失之曳ホシク雖有之古物委存在此外如此之類繪畫及数巻云々追々可借用之旨令約束之古調度眼前存在ス之圖之可為證據者也殊御笏笠御帋幸笠烏頭太刀等其躰諸記未所見況忽得此圖有亀字本之堅秘不可及見之旨約之

（右亀以下誤脱欤）

元文三年六月廿一日　　采女正紀宗直

（かくのごく白を書せる紙ひれ）

銀擔揃

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9
ガラス使用

次中古ヨリ傳綠綾 ホト是ヲ卜降ヲ以テ文字トスルヲ又ノ歸トスルヨシ此ニ云ノ卜降綠綾ハ今指シ云フ如キノ文ハニエズヨリ穿穴ヲ以テメタキコトナリ又流文綾ニテ讀テ其心ヲ得ズ流ノ字疑フラクハ綸ノ字ノ写誤ナルカ其物ナラン綸綠綾ⓗ云フ物ニ似タルユヘニ錄シツケヌ

御鞘 同錄云蒔繪鞘一枚薄蒔手文金物 繩組緒有之 私按ンニコノ神器今闕失セリトイヘド此用錄ヲ以テ考ルニ是ⓘ神寶ノ鞘ニシテ征箭ノ鞘ニハ非ザルカ同ニ是ヲ錄シツケヌ

異アルカ同ニ是ヲ錄シツケヌ

右幸依得并見之便宜
為後勘所錄如件

享保十九年十月日　　宇治田忠卿

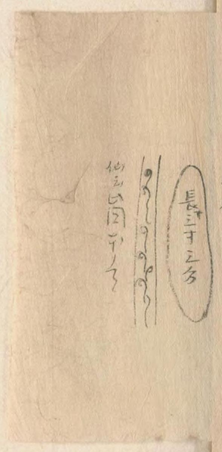
熊野新宮之神宝者往昔行幸御幸之時被寄附之御調度歟當時在御内陳如神宝神躰云ニ將軍家為御沙汰紀伊中納言殿委作圖被献之宇治忠卿宇平左衛門紀國殿家士也奉行之此圖授予忠卿語云毎度被寄附ニ時有寄附狀亦今有之云ニ又紛失之臭ヒ雖有之古物委存在此外如此之類繪畫及數巻云ニ追ニ可借用之旨令約束上古調度眼前存在ノ之圖之可為證據者也殊ニ御笏笘御靴笘烏頭太刀等其躰諸記未所見乃得此圖有亀字本之堅秘不可及見之旨約之

右亀以下誤脱歟

元文三年六月廿一日　　御厨子所預 采女正紀宗直

かくのごく奥書にのうへ絵なの志ゐ形ゝを

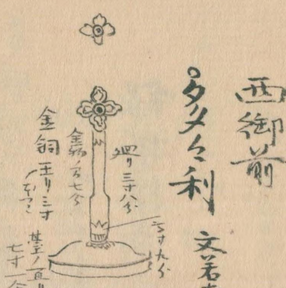
銀薄拂



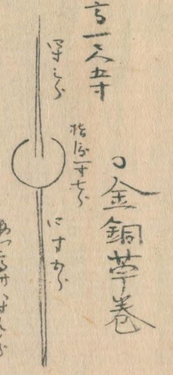
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

西御前

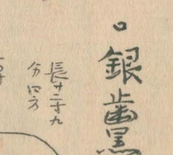
○タヽ々利　文若衣為ニ一ノ丈ニ五寸



○金銅笏巻

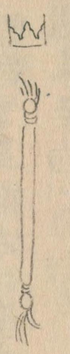


○銀畫笏

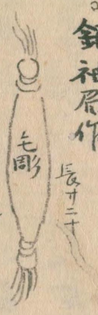


○拂　文笏ノ如シ

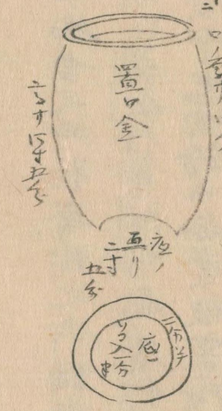
○畫黒笏



○銀袖眉作



○笏筥　文多ク利ニ同シ



○銀畫笏

○筆筥

物矢長二尺三寸五分

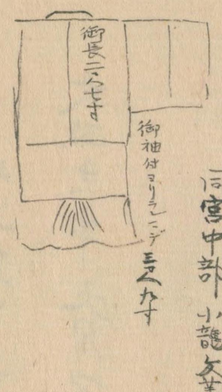
征矢廿六ツ羽筴畫漆

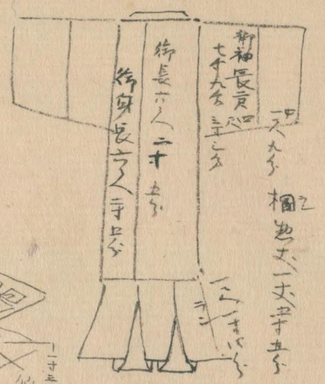
鏑矢一本ニツ羽ニ切

手頭一手筴木地ツヽミ

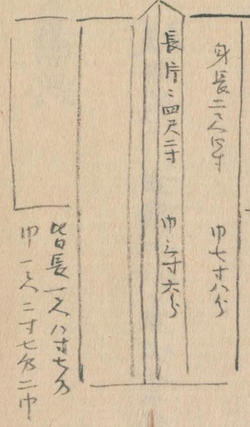
○輪無響唐草

御直衣





同宮中部小龍文菱



○西御前

衾五領一對　藤又半白

此通りニツ

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

以上熊野新宮神寶圖終

文政十一年九月写之　　従五位下行右権大尉兼出雲守藤壹岐守栄

印

法隆寺所傳

御笛　箭　三節　鐙　一巻

鞨鼓　麻

琴　裏ニ　開元十二年歳在甲子五月十日於九龍縣造トアリ

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

鹿島續卷物

贄男（にえおのこ）　津宮　二馬指　一御船木　八龍神　大楯　二御梨木　三御梨木

一御神馬（信濃國）　二ノ〻　三ノ〻　四ノ〻　田吟　押領使　酒司

検非違使（正院）　鐘樓　神宮寺　塔　横門二重堂　国衙　宮女

二馬指　八人検杖　副祝　大祝　物申祝

内院八人　物忌　八乙女　八人女（ヒトヲミナ）　歌人

御神輿　引馬　榜弥宝　同陪乗　大祢宜　陪従　引馬

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

国行叟　大祓詞　神ま随無

一鳥居　廻廊　楼門　御手洗　同下馬　御留守　神ら

本社　御門　内二社　左右ニ有リ　末社　右二社　左ニ有リ　又思ハシトコロニモ有リ

一此祓朱八洲ニ流布大抵二ノ如キ十一二ニ此非ニ限ラス

田吟　ニ書シ白紙ヲ作ル　馬上ニ指ス榊ノ元ヲ束ネ書花ヲ二人ニテ

ニ持ル口上ニ述ヲ入ル　検非違使　赤地ノ錦ノ袋ニ入レ馬上ニ書状ヲ入ル

書状ヲ不ニ見ル　宮内　官位姓名　追而加筆白ニ書状ヲ入ル

口授ス　書白手　ニ持ル　検非違使　ニ書ヲ一巻ニ入ル

ニ入ル袋ニ入ルノ人ニ　ニ入ル袋ニ入ル　ニ入ル袋ニ入ル

作ル船ニ乗ス　八人　按摩　ニ入ル船ニ白衣ヲ着シ

ニ付ク　麦ニ　ニ入ル　馬上白丁　馬ニ入ル　白張ヲ着シ

命をごちそうにあずかる　大祓　二人　ニ入ル

御本紀　延喜図経　御口上　次　ニ入ル

ニ入ル　ニ入ル　次　ニ入ル　次ニ入ル

者ニ入ル　御ふみ　馬上六角白の　ニ入ル

ニ入ル　三人　ニ入ル　次　ニ入ル

御祓　ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル　八人

のさわぎ　ニ入ル　次ニ入ル　白あと

ニ入ル　ニ入ル　次ニ入ル　白張

ニ入ル　白ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル

ニ入ル　ニ入ル　神輿は　天ニ入ル

方のごとく　ニ入ル　又御ニ入ル　ニ入ル

白ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル

ニ入ル　ニ入ル　又ニ入ル　ニ入ル

とんぼ　ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル

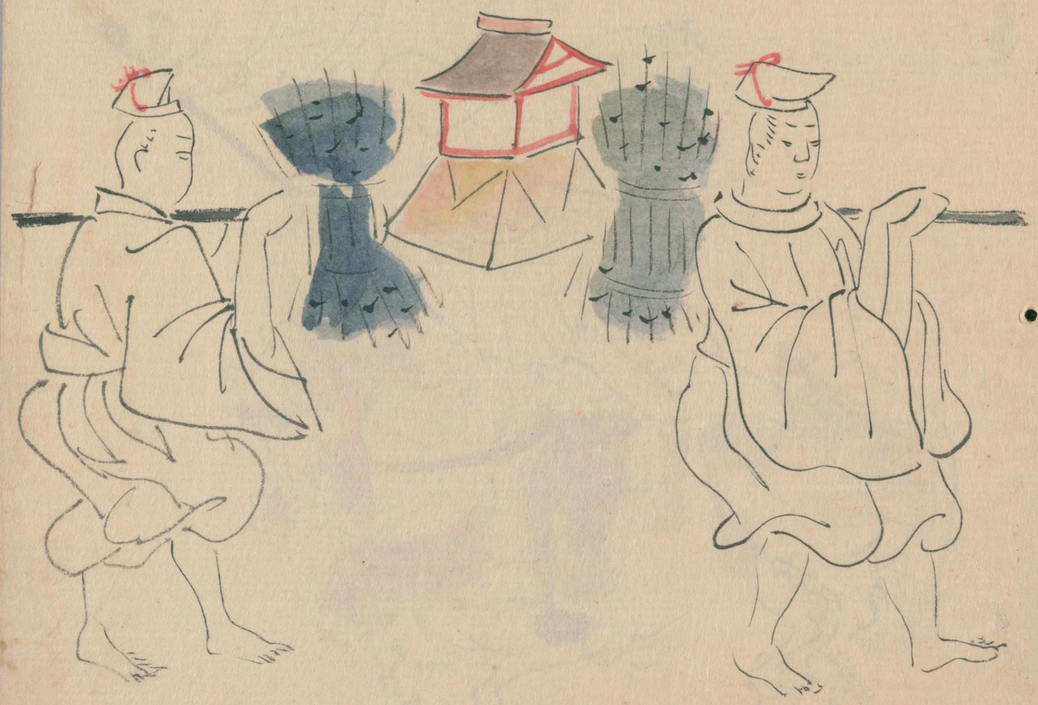
ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル

ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル

ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル　ニ入ル

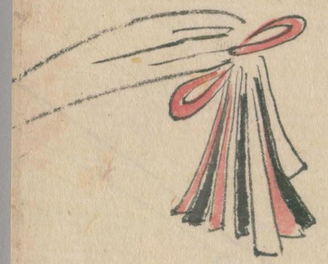
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

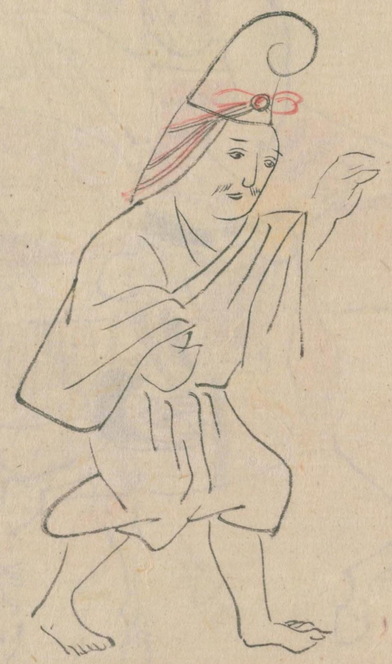
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

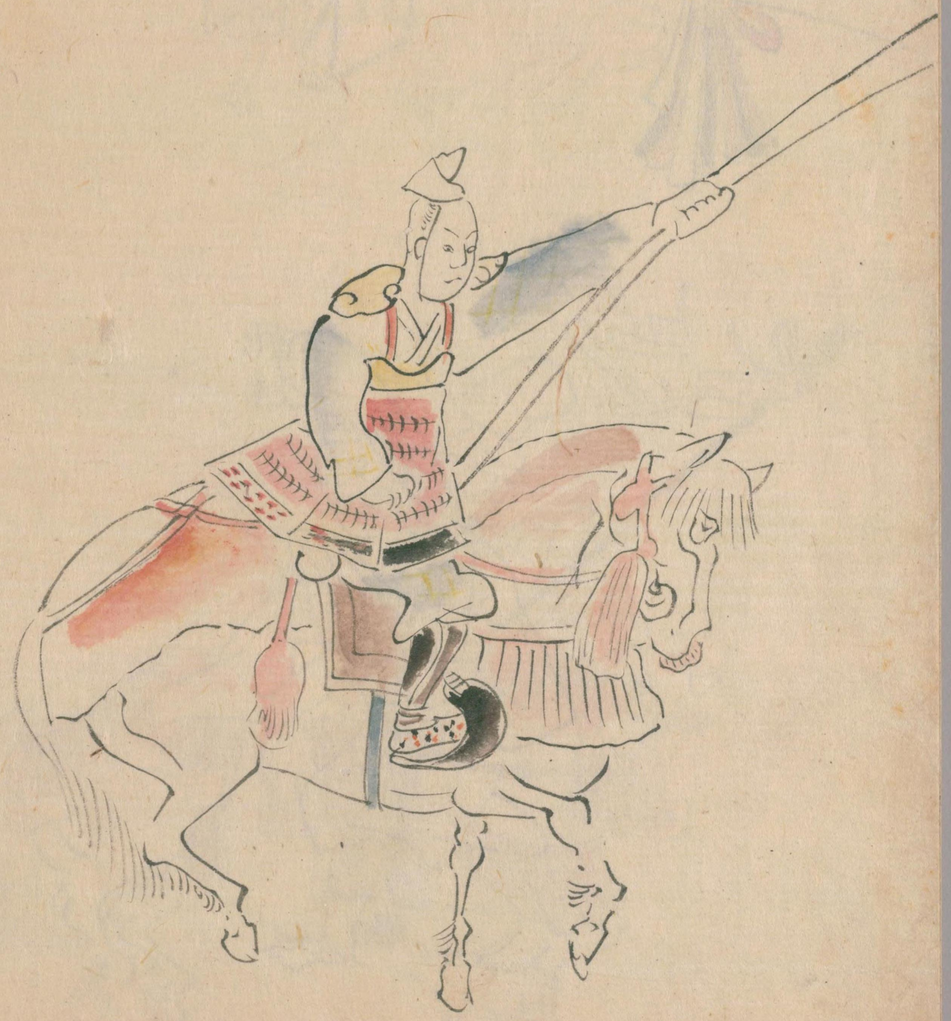
ガラス使用





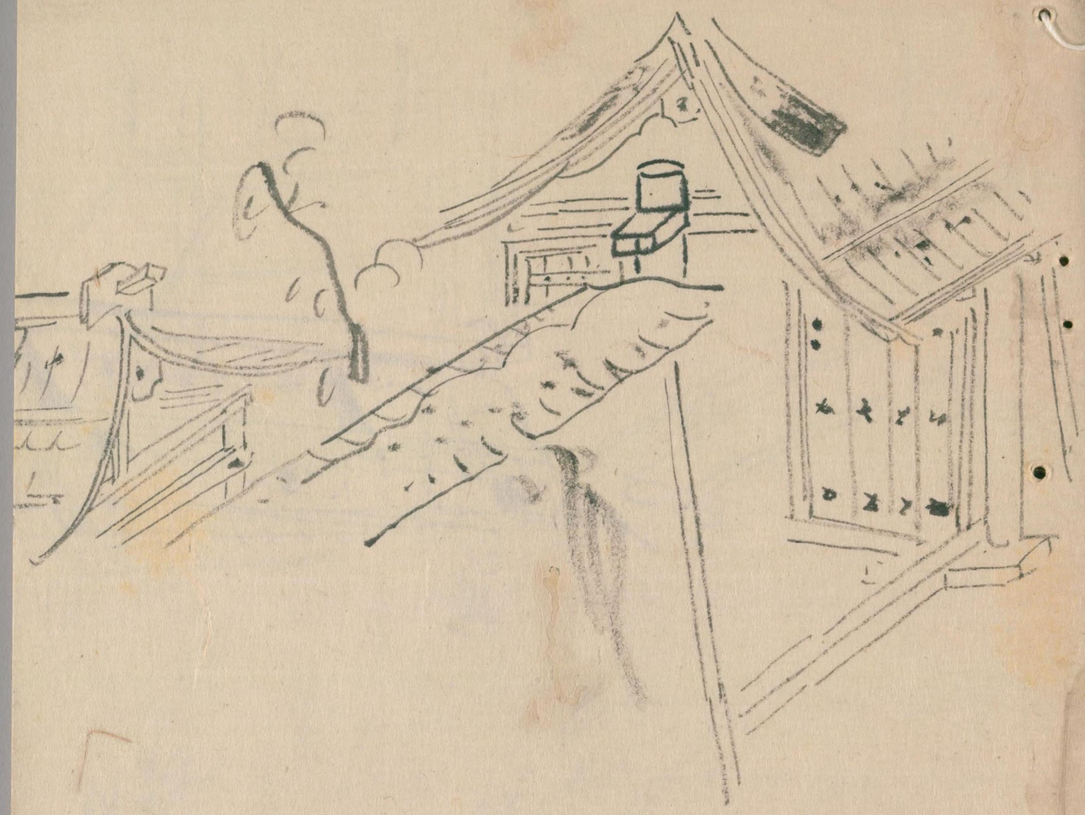
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

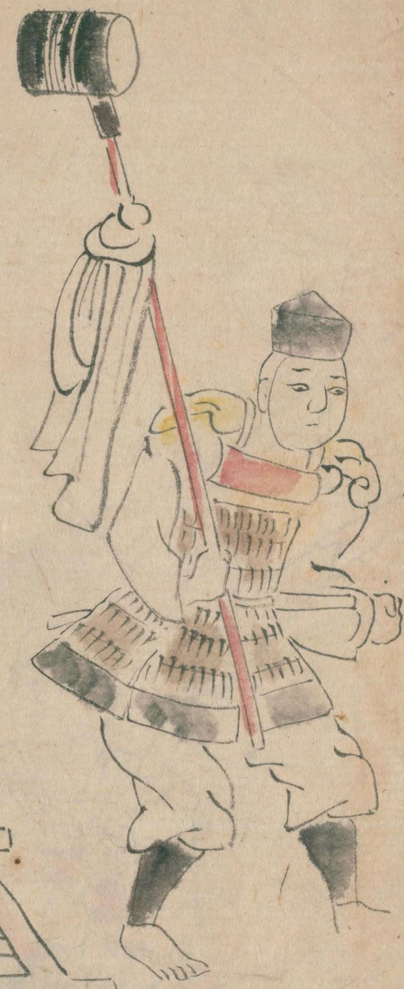
ガラス使用

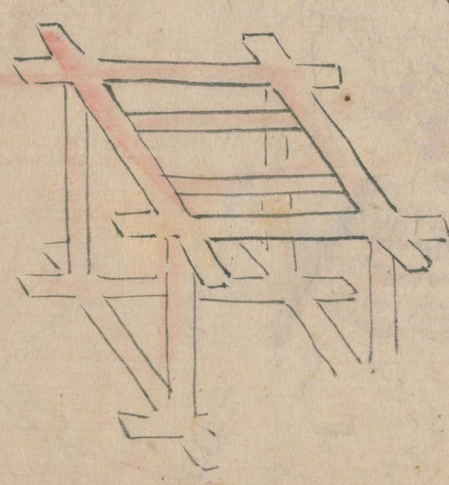


国立国会図書館　　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

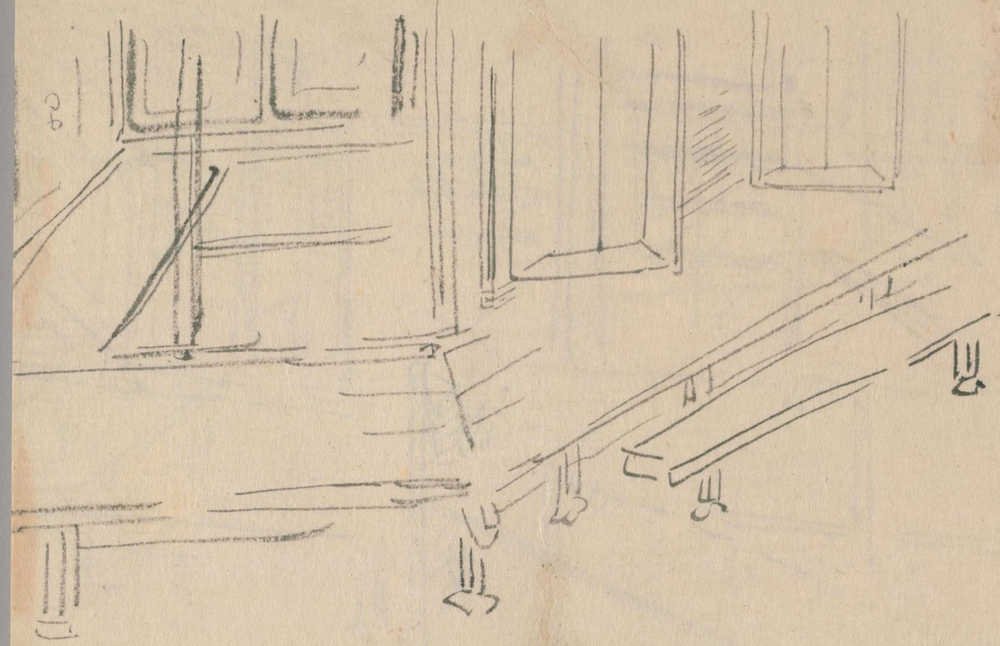


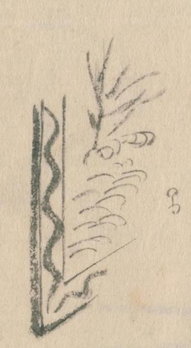


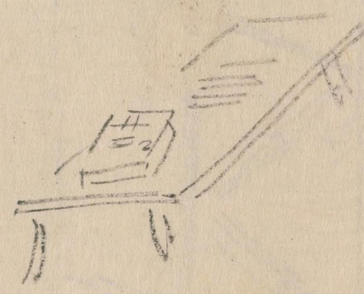


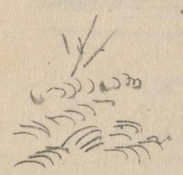
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

ガラス使用



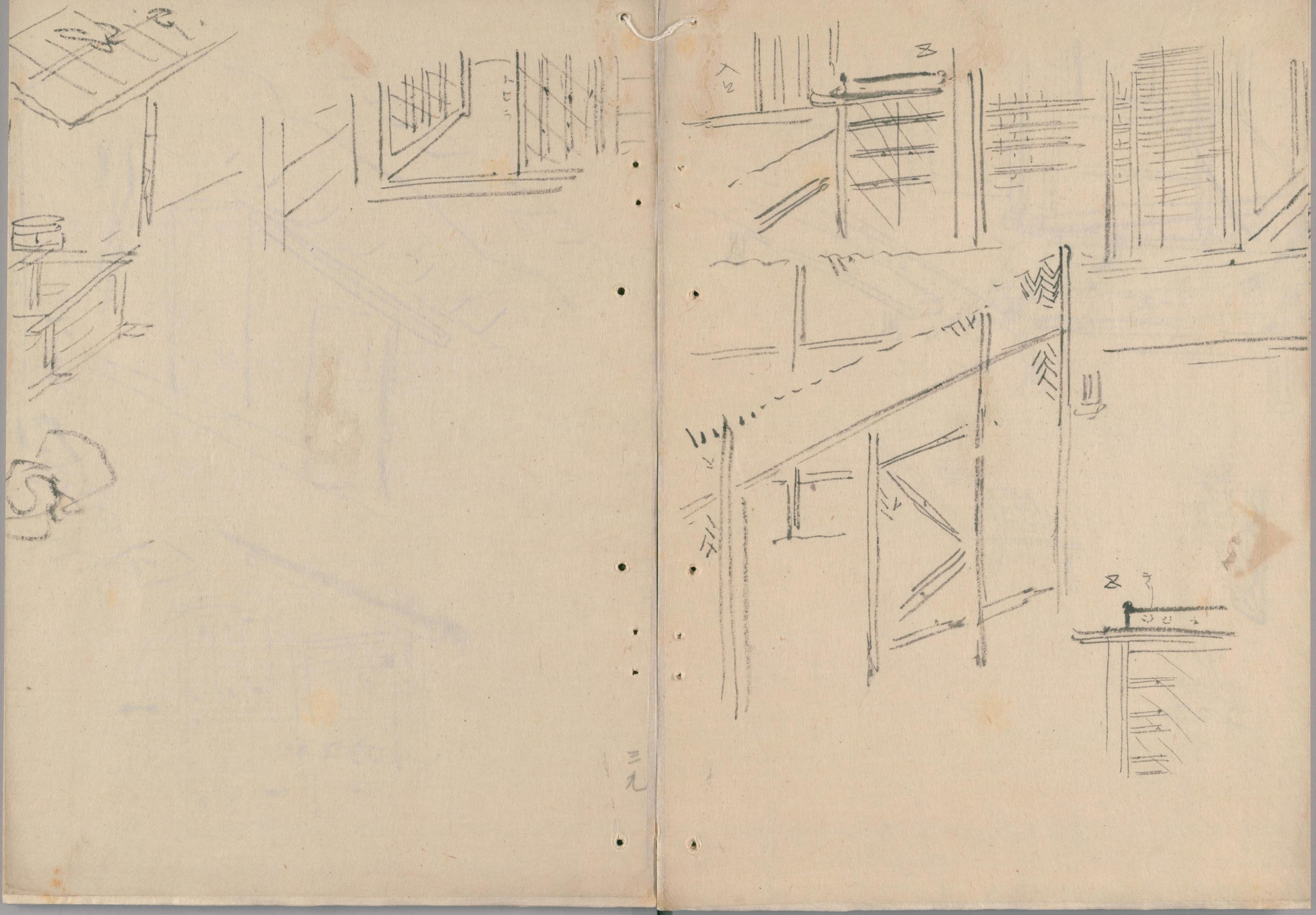






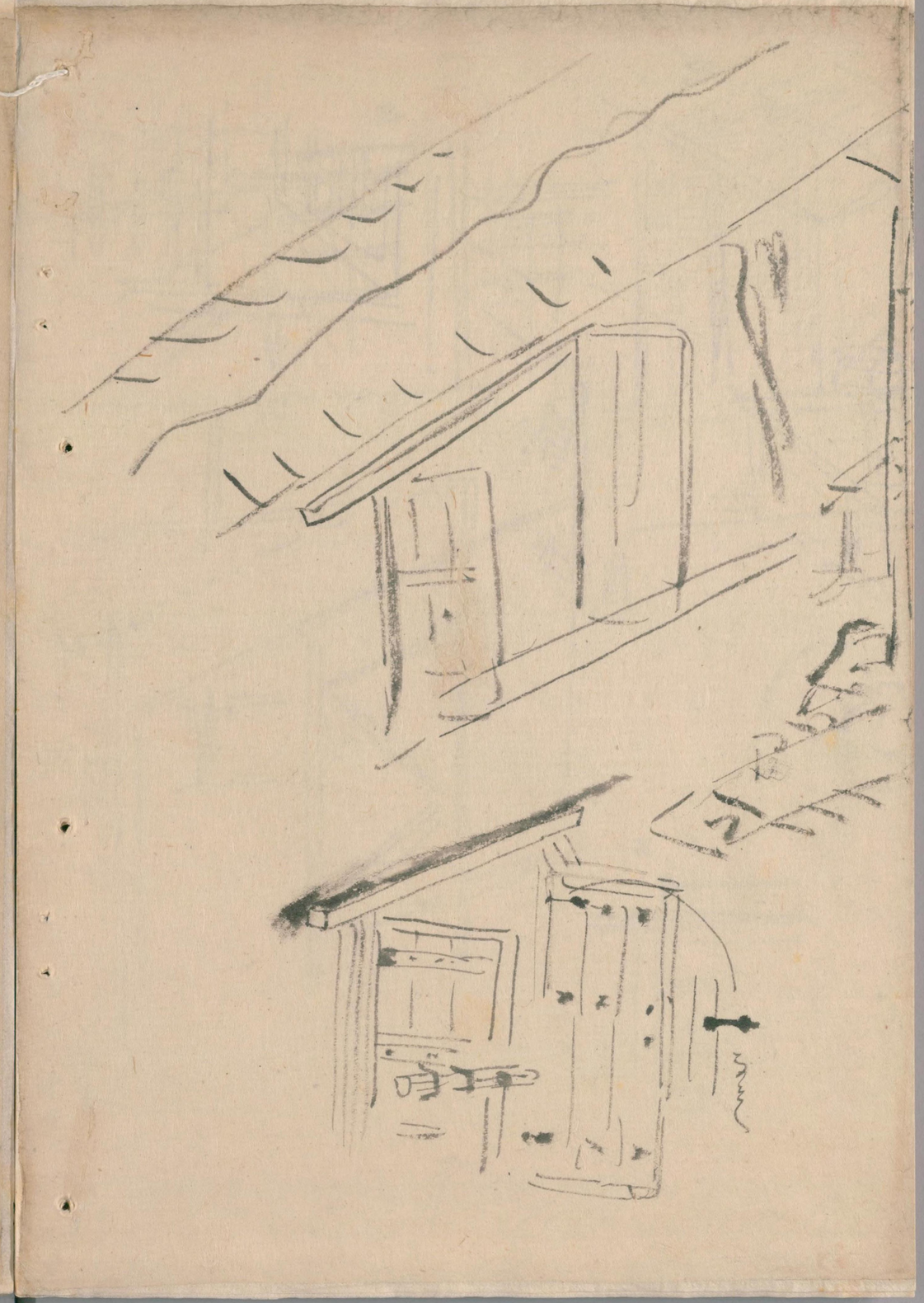
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

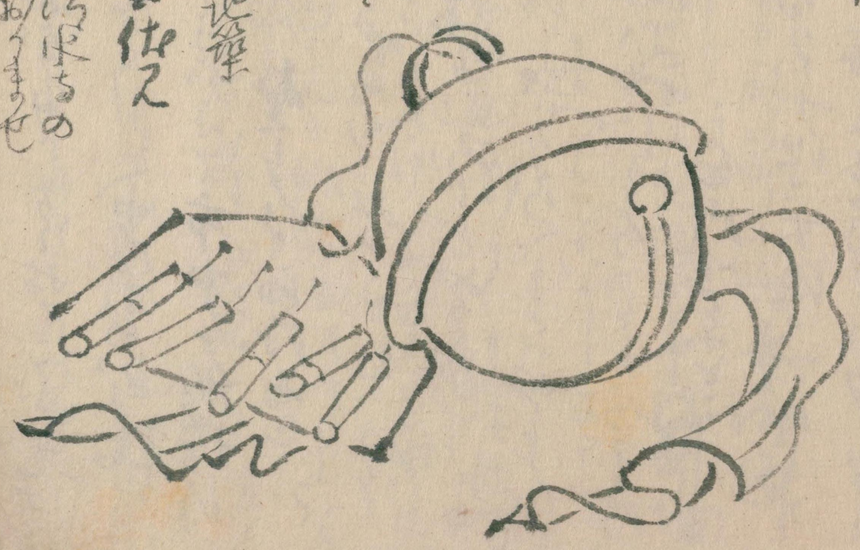
ガラス使用

みやこ
おぐり 詮なるさの神徳

みやこ
おどり 玲なるまでの神徳

生き活しき神といはめや玲の
雲(ゆくか)ものごとくおどる風俗

我まうにものしむまのごとなり
笨ふつすまろくてみやこの中を
町ごとをもりくとおどるうち渋を
放ち出すまでの記とつま出を其
そも先ん三月二旬ころ諸方おうまの七地築
おうも中ゆき 松東頂ゆる沿ふ人ごと仕え
海原たまとのまふの地つま紀そろまろ
おうまも



国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9　　ガラス使用

小家の料理なく今ときもてなすも理なり
体をすこしやせるやうにもてなすこと
専ら頭痛のおこるやうにもてなし雪むしろ氏実にて新の大編若うう
なれどもうたいものうまりうたうやうにもてなすこと
四月上旬より松し来よ翌年三月庇おい初而
葉さくら迄仕入ること今ごろ探索海の幸地らしやうもんさも
うんとあるぞんじ候間左様御心得可被下候
船宿四人手当やい訳は面会の節可申候
かしこ
東松家奉行迎役人
天保
みのや手代湯板

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

家をこそ来たちゝ
なりて栄すてゝおを
家をめぐり本立ちれ
たゝら栄すてゝもゝ
四まてりてくるゝと云
ふうもちゐら一章をいゝ

京雅

京雅

京雅

京雅

京雅

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

一那物之事
無意含ませおき
ものゝ上中下大物の
ものゝ上とやらん位をうよ
りハ張成の作志剔紅堆紅等一たるべく
又茄花等無意含世上ゟ稀ハ古の時
万正室ゟ有物ゟ今ゟ一方前ゟ

盆ハ角ミじかきを大切にいたし候ちやう
めんになりたるもの今とかハりたれども
甚だ上京にてハ皆形盆方盆大切に候
小盆ニ梅花重宝なり香合ハ大小あり
と申物ニ於ては古きほどの物にハちいさき
香合ニ代々是も手よりも名代より上
中下あるべく口一寸五分二寸也剔紅ノ
名やらなりしらあきハ今之三四手迄も残
一

梅花の葉蕾も又中央の草にたとへ候
にて候時ハ張成の時ハ五千迄今ハ三千迄
一体は大切な文手の香合花鳥なり候最
の手なり也香合一つにし是又重宝に今堆
堆紅福よく重宝也常に堆朱手
のたいハおほく香合系のかりしの墨之重
宝に入る張成の時ハ千五百迄の物なり
桂漿の事も手つふりさき花鳥 蛟龍手也

なりと云ふ也
一猩紅　色あり地よりあざやかにして
いろこゆきになりてそまりやすくなりを云也
一緋紅　色あり地よりさやかにして一入二入もあり多くそまりてなりを云歟
一緋朱　色あり地よりさうたりめよりあつくそまりて赤
二
なりめにくろきうるみありさうたりめぬかく
り上りを云也但緋紅斗共緋朱一一緋
紅と云事あり
一金糸　色あり地さうたりめぬかく
なりめに黄と赤と筋十をもち斗うるみ
を云也一疋と手ふり
一丸連糸　用前手あらく重もくなし
一黒金糸　色くろし深く赤と

黒きかさ粉すをちらしたりけり
一堆漆　色ハ朱のことくにして地ま
てほりことさすほりくだしあり
一紅花緑葉　是ハ花鳥をほり花鳥をハ
赤く枝葉をハ青くぬりあらはせる也
一桂漿　色黒し地きらりとほりめに紅
朱のかさ粉一筋又ハ二筋あり花鳥ほりく
だしあり又地をくれなゐにぬりたるも

あり地くれなゐとも云又剔紅のことく地ハあ
かく色ハうしますのかくしかとほりて上
廣に人物花鳥なとほりたる事しゆう
そこもは子細ありて龍山とも云
一犀皮　色黒しほりめ手あさくほりめ
にあかきかさ粉赤くとうたあかくありて花
鳥をもたからもの常にほりくよおとし松のか
たれ象に似たり松皮とも書也

一雉烏　色黒くして桂樟のごとく
地まで下もこゝまで地も黒くて
おかし

一存せい　色黒くして素こさもありちさんの
ごとくにて小りたる物なりまれしよし

一作ハ張成文一上也楊茂来二周明同
一胡銅之物　これも仁九年来ハすく
么方校内物よハ□是亦雑なるに名品

四

以上古書の世上よりそを物よりて
和漢の見やうハそ物よりて口伝あり
難しい紋のある物ハ左すくなく
大事とす

紫銅　宣音銅ハ和らかよ金ぬりく

一茶椀物之事

青磁ともいわれき茶椀の名物也
白磁ともいうき茶椀の名物也

五

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

鏡州椀　こんもろくく紋ま
　　まかにある茶椀ともいふ也
瑠璃　常にこもろくく紋ま
　　瑠璃宝州にいできたるをいふ
　　たゞ用ゐる事多き瑠璃とも
白茶椀　よろくめそ紋をもつける
　　ありたくをもつ茶椀とも云
一土之物

一曜変　建盞の内の平上也世上より
　　ものこの地いろもくこまろうう
　　すきほりのくくこまとあり又色
　　白色こく筋きほりのもの多まり
　　すてふ〜哉の座〜なるをもつも
　　万疋の物ゝ
一油滴　建二の重宝こゝれを地ともり
　　ようにもくくこまろ筋茶多生ち

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9
ガラス使用

一建盞　越て五寸迄

一建盞　越て三寸迄

一烏盞　たゝけんの

一鷹盞と同物也大小あり代百文

一鷲盞　てんもく其外茶黄色ふて

一能皮盞　是も天目乃

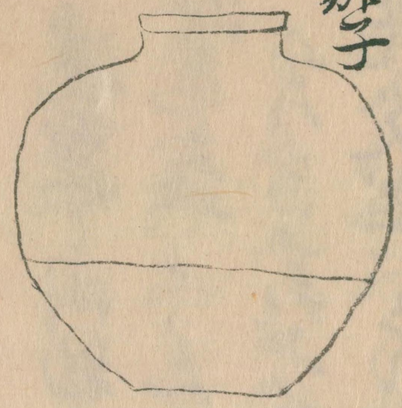
外よふとあり代百文

一天目　是ものこと

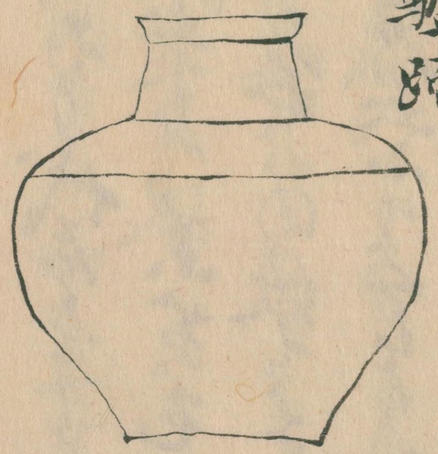
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用

一葉茶壺之事　若よりも壺実ある方よ
ろこぶ物ゆへ
一抹茶壺之事

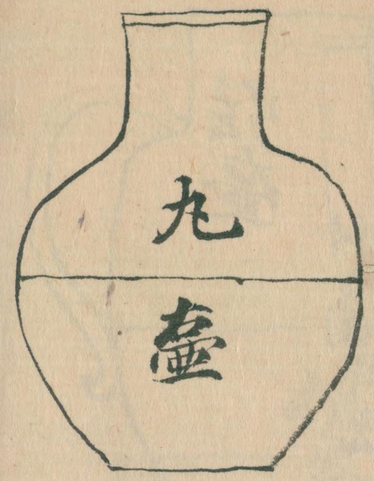


茗子



驢蹄

七



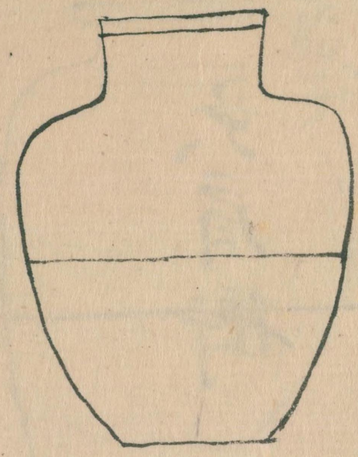
九壺

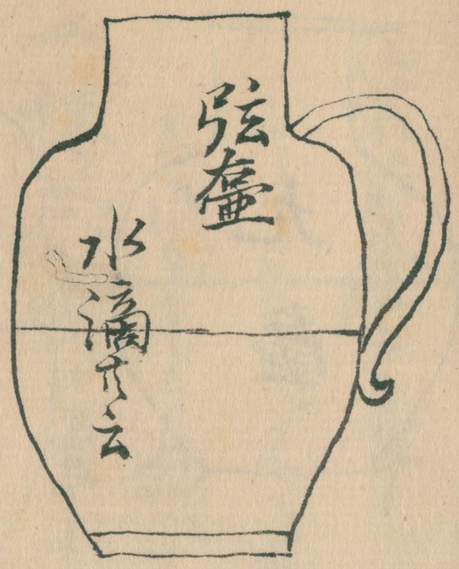
大肩衝

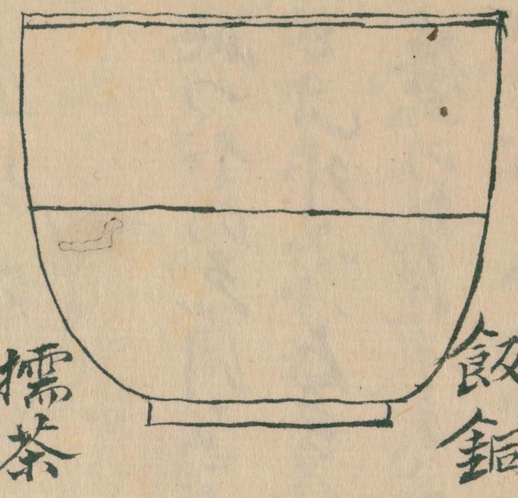
大海

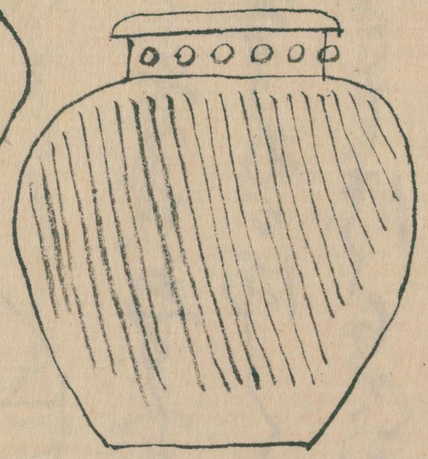
小肩衝

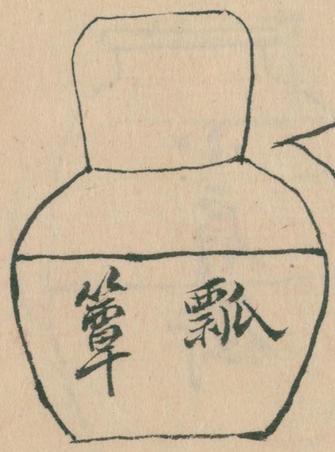
国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9
ガラス使用

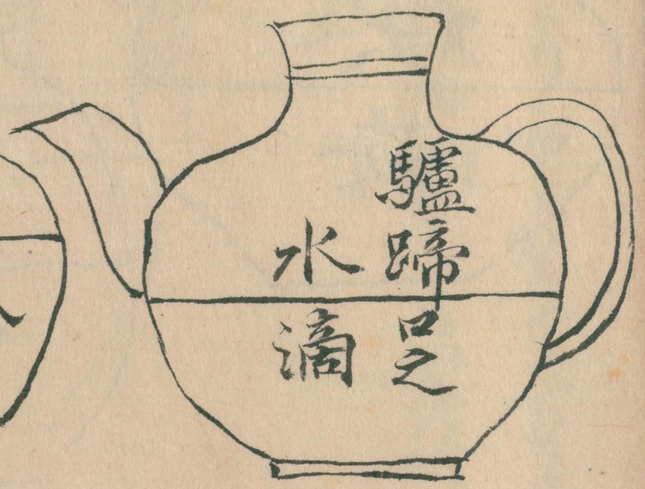






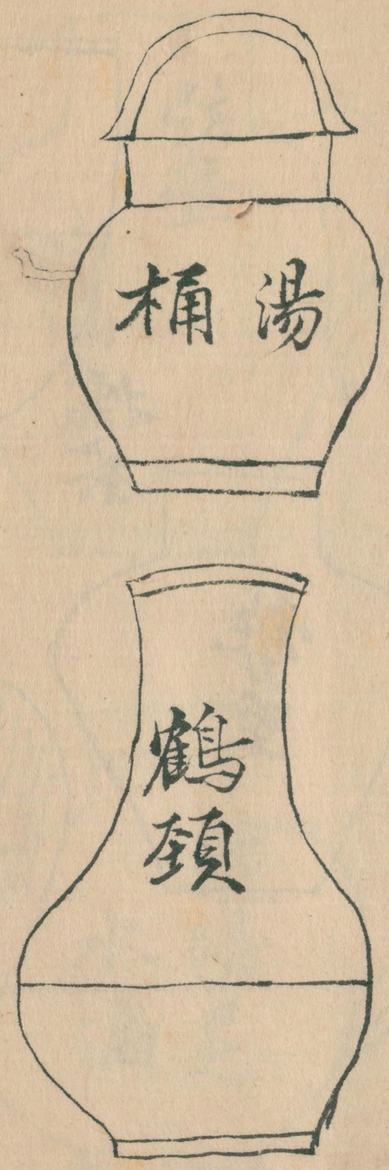






国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』 請求記号 本別14-9

ガラス使用



此つぎの図をよく見てくださいまし外かたちにかはりある所ばかりにて壺のなりはさしてかはりたる事もなきゆへ

一壺、つまり置物ふくろ入ニ而時ハ袋ニ入ながら
袋ニ入ニ而ハ袋ニ入ながら
もりそをする事
一袋のもの事むを記
をめさ所の房のあるうろこ
下略

右此條ニ不實ノ大抵所望思出等ハ
記也不可有外見ニ

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9
ガラス使用

別14
9

5639

永正八年辛十月十六日　真相

子光堂

於前居士

右右墓觀右右帳記元軸某氏舊来秘
匣中予雖久欲之不敢發言某氏亦嘗意
欲我家藏鄉義弘刀一日共言其志遂換
之各適願於此直命家僮另雙鈎一軸

十

壽梓以贈同好士欲永不朽也而多布
于世則似背真相子之言因梓行限百
卷云

文化十一甲戌年十一月

聖坂舍藏

国立国会図書館　タイトル『尚古雑摸』　請求記号 本別14-9

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『尚古雑摸』　請求記号　本別14-9

ガラス使用